

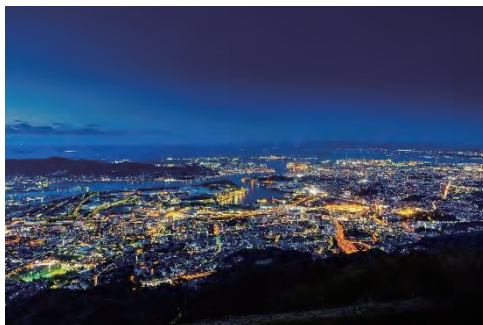
令和3年度

第43回全国公民館研究集会

第72回九州地区公民館研究大会 福岡大会

兼 第66回福岡県公民館大会

持続可能な地域づくりに向けた公民館活動の在り方  
今こそ、地域を結ぶ新しい時代の公民館～温故知新～



WEB動画配信（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

配信期間：令和3年11月8日（月）9：00～11月26日（金）17：00





# 第 43 回 全国公民館研究集会

## 第 72 回 九州地区公民館研究大会 福岡大会

---

令和3年度 第 66 回福岡県公民館大会

---

### 目 次

|                            |                |
|----------------------------|----------------|
| 1 公民館の歌                    |                |
| 2 挨拶・祝辞                    |                |
| (挨拶)                       |                |
| 九州公民館連合会 会長                | 木原 忠 ..... 1   |
| 公益社団法人全国公民館連合会 会長          | 中西 彰 ..... 2   |
| 福岡県教育委員会 教育長               | 吉田 法稔 ..... 3  |
| (祝辞)                       |                |
| 福岡県 知事                     | 服部 誠太郎 ..... 4 |
| 3 開催要項                     | ..... 5        |
| 4 分科会                      |                |
| 分科会構成                      | ..... 7        |
| 分科会役割者一覧                   | ..... 8        |
| 第 1 分科会 地域・学校・家庭が連携・協働した活動 | ..... 9        |
| 第 2 分科会 家庭教育・子育てを支援する活動    | ..... 14       |
| 第 3 分科会 人生100年時代へ対応するための活動 | ..... 19       |
| 第 4 分科会 誰一人取り残さないまちづくり     | ..... 24       |
| 第 5 分科会 自治公民館活動            | ..... 29       |
| 第 6 分科会 青少年の成長と自立を促す活動     | ..... 34       |
| 第 7 分科会 防災や防犯のまちづくり        | ..... 39       |
| 第 8 分科会 コロナ禍における公民館活動      | ..... 44       |
| 5 全体会                      |                |
| 表彰                         | ..... 49       |
| 記念講演                       | ..... 51       |
| 《講師》NGOペシャワール会 会長 村上 優 氏   |                |
| 《インタビュアー》九州女子大学 教授 大島 まな 氏 |                |
| 6 資料                       | ..... 52       |

# 公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞  
下総 皖一 作曲

快活に ♩ = 104

*mf*

1. へこ いわ の は る に あ た ら し く  
2. こは こた ろの く はは な の に かに  
3. は こた らの く もの の かに

*f* *p*

きょう どを おこすく よろかし も (こう) みんかんの  
きょう どを おこすく よろかし も (こう) みんかんの  
きょう どを おこすく よろかし も (こう) みんかんの

*mf* *f*

つつ どいいか ちらとま けあうー うをこ ねろなう ごつ やくー かし  
つつ どいいか ちらとま けあうー うをこ ねろなう ごつ やくー かし

*mf*

にに じぶん うの あいち さずを たく た え よう  
にに じぶん うの あいち さずを たく た え よう

## 公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞  
下総 皖一 作曲

- 一、平和の春にあたらしく  
郷土を興すよろこびも  
公民館のつどいから  
とけあう心なごやかに  
自由の朝をたたえよう
- 二、心の花におやかに  
郷土にひらくゆかしさも  
公民館のつどいから  
希望を胸に美しい  
文化の泉くみとろう
- 三、働くものの安らかに  
郷土に生きるたのしさも  
公民館のつどいから  
まどいになごむひとときに  
明日への力そだてよう



## 挨拶



九州公民館連合会

会長 木原 忠

第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会兼第66回福岡県公民館大会が、九州各県の多くの皆様の御協力のもと、動画配信により開催できますことを大変うれしく思いますとともに、心から感謝申し上げます。

まず、令和3年8月の大雨で被災されました皆様には、心からお見舞い申し上げます。特に、被災地の公民館におかれましては、緊急避難所となるなど、住民の命を守る拠点として、懸命な御尽力をされた関係者の皆様に敬意を表しますとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

本大会のテーマは「持続可能な地域づくりに向けた公民館活動の在り方」です。「まち・ひと・しごと創生法」が2014年に制定され7年が経過しようとしています。国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成を目指す「地方創生」という言葉が取り上げられて以降、九州各県においても「地域」を主眼に置いた施策が数多く展開されています。

しかし、地域の担い手不足や人間関係の希薄化などが懸念され、いかにして持続可能で活力ある社会を構築していくかが問われています。

その持続可能な活力ある地域づくりに最も必要なものは、「人と人のつながり」であります。地域を愛し、住み続けてくれる人を育て、歴史や文化を育み、「人と人とがつながる」ことで持続可能な地域を実現させていくことが重要です。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、対面により議論を深めることは叶いませんが、この福岡大会を機に、「人と人」、「人と地域」をどうつないでいくのか、この大変な状況をどう乗り越えていくかを考え、これからの各地域における公民館活動の一層の充実と発展に向けて役立てていただけると幸いです。

終わりに、本大会の開催にあたりまして、御尽力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、皆様方のこれからの御健勝、御活躍を祈念いたしまして挨拶いたします。

## 挨拶



公益社団法人全国公民館連合会

会長 中西 彰

第43回全国公民館研究集会及び第72回九州地区公民館研究大会福岡大会を開催するにあたり主催者の一員としてご挨拶申し上げます。

令和という新しい時代を迎えましたが、全世界に広まった新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく響いています。昨年度予定していた全国各地の全国公民館研究集会は、そのほとんどが中止や延期、または誌上やネット上での開催となるなど、開催形態の変更を余儀なくされました。今年度の開催に向けても、急増する感染者数や医療体制の逼迫状況などを注視しながら、それぞれの開催地で柔軟な対応のもとで準備が進められてきました。これだけ多くの人たちが開催のために携わっていただいていること、そして公民館活動に期待をしていることに感謝の気持ちが大きいとともに、とても心強く感じています。

また、現場の公民館においても、コロナ対策に迫られ、たいへんな試練の連続となりました。「つどう」「むすぶ」ことを大切にしてきた公民館に、人々が集えない状況が続き、一時は閉館や感染防止策の徹底等、さまざまな対応に迫られました。こうしたなか、本連合会でも「公民館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を策定いたしました。多くの公民館においても独自のガイドラインをつくり、それぞれのお立場で感染拡大抑制に努力をされてきたことと思います。一方、地域で暮らすみなさまの生活はそのような状況でも続いています。「人びとの学びや活動をとめてはいけない」との思いで、この事態においても、創意工夫によって充実した公民館活動が展開されてきました。このコロナ禍を通じて、「オンライン会議システム」や「テレワークに付随する環境整備」など、インターネットを通じた取り組みが急速に普及しました。公民館でも数多くのオンラインを活用した取り組みが行われています。このように、新型コロナウイルス感染拡大という事態においても、みなさまのご尽力により充実した公民館活動が展開されてきたことに深く敬意を表します。

地域社会ひいては日本社会の輝かしい未来を切り拓くために、公民館は多くの関係機関や関係者と積極的かつ柔軟に連携・協働して、新しい時代の地域づくり・人づくりをこのコロナ禍の苦難を乗り越えて、これからも振興発展していくことを期待しております。

おわりに、地元である福岡県をはじめとする多くの皆様のご支援・ご協力に対し、また本大会開催のためにご尽力くださった福岡県公民館連合会をはじめとした公民館関係者、及び関係機関・関係団体の皆様に、深く感謝を申し上げます。

そして、公民館のこれからの限りない発展と、公民館職員の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

## 挨拶



福岡県教育委員会

教育長 吉田 法稔

第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会兼第66回福岡県公民館大会が、新型コロナウイルス感染症の影響により動画配信での開催となりますが、九州各県の多くの皆様の御協力のもと、開催されることを心からお喜び申し上げます。

また、本大会の開催に御尽力いただいた関係機関の皆様に深く敬意を表します。

昨年度から新型コロナウイルス感染拡大により、日本各地で何度も緊急事態宣言が発令される事態となりました。本県におきましても、学校行事の自粛や中止等を余儀なくされました。現在も感染対策を行いながら児童生徒が安全で、心身ともに健康で充実した生活が送れるようにきめ細かな対応を行っているところです。

さて、本県教育委員会では、「国際的な視野を持って、地域で活躍をする若者」（ふくおか未来人財）の育成を目指しております。その育成のために必要な新たな視点として、「学力、体力、豊かな心」、「社会にはばたく力」及び「郷土と日本、そして世界を知る力」の3つの力を柱とする施策の方向を示し、様々な施策や事業を推進しています。

近年の少子化、核家族化、地域コミュニティの希薄化などに伴い、家庭や地域社会が急速に変化する中で、今まで以上に子どもたちの活動や学校に対する支援を充実させることが求められております。これらの課題を解決するためには、地域における社会教育・生涯学習推進の拠点である公民館と連携しながら、地域・学校・家庭が連携・協働した活動、家庭教育・子育てを支援する活動、青少年の成長と自立を支援する活動等に取り組んでいく必要があります。

このような意味からも、「持続可能な地域づくりに向けた公民館活動の在り方」をテーマに本大会が開催されますことは、誠に意義深いことであると考えております。

本大会を通して、公民館の機能と果たすべき役割について改めて考えていただきますとともに、大会の成果をそれぞれの地域で共有され、地域の特色を生かした魅力ある公民館活動の一層の充実と発展に御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたり格別の御尽力、御協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様方の益々の御健勝と御活躍を心から祈念申し上げまして、挨拶といたします。

## 祝辞



福岡県知事

**服部 誠太郎**

第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会兼第66回福岡県公民館大会が開催されますことを、心からお喜び申し上げますとともに、この動画をご視聴の皆さまを心から歓迎いたします。

また、九州各県からご参加の皆さまには、日ごろから公民館活動を通じて、社会教育や生涯学習、さらには活力ある地域づくりにご尽力されていることに対しまして、深く敬意を表します。

さて、近年、地域コミュニティの希薄化や地域の教育力の低下などを背景に、公民館の役割はますます重要になっています。充実した公民館活動を将来に持続させ、地域に活力を生み出し続けていくことがこれまで以上に求められています。

本県においても、「次代を担う『人財』の育成」を推進しており、地域の活性化、スポーツ・文化・芸術などの発展、振興を担い活躍する人材を育てることに取り組んでいるところです。公民館は地域の人々が「つどい・まなび・つながる」身近な場として、多様なニーズに応えるとともに、環境、子育て、防災など地域の課題解決に取り組む人を支援する拠点としてますます重要な役割を果たすものと考えています。

このたび、「持続可能な公民館活動の在り方」を大会のテーマとされ、動画配信という開催形態ではありますが、今日の公民館の在り方について議論を深められますことは、誠に時宜を得たものであり、その成果に大きな期待を寄せているところであります。皆さまにおかれましては、今後とも住民に求められ、地域に根付く公民館活動を積極的に進めていただくことを期待しております。

本県は、世界文化遺産である『『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』、「明治日本の産業革命遺産」、無形文化遺産である『博多祇園山笠行事』『戸畑祇園大山笠行事』など歴史・文化、豊かな自然と新鮮な食材・食文化に恵まれております。また、改めて来福いただき、福岡の魅力をご堪能いただけたら幸いです。

結びに、本大会のご盛会と九州公民館連合会のますますのご発展、そして皆さまのより一層のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



第43回全国公民館研究集会  
第72回九州地区公民館研究大会 福岡大会  
第66回福岡県公民館大会

開催要項【動画配信】

## 1 趣旨

近年、少子・高齢化、都市化・過疎化の進行とともに、society5.0時代の到来など、生活様式や価値観の多様化、社会情勢が急激に変化しています。その結果、地域の担い手不足や人間関係の希薄化などが懸念され、いかにして持続可能で活力ある社会を構築していくかが問われています。

本大会では、九州各県の公民館関係者・コミュニティ施設関係者が一堂に会し、実践の紹介や協議をとおして、ともに学び合い、公民館の機能と果たすべき役割を再認識し、取組への意欲を向上させるとともに、「持続可能な地域づくりに向けて」今後の公民館等の活動を一層充実させることをめざします。

## 2 大会テーマ・スローガン

テーマ 「持続可能な地域づくりに向けた公民館活動の在り方」

スローガン 「今こそ、地域を結ぶ新しい時代の公民館～温故知新～」

## 3 主催

公益社団法人全国公民館連合会、九州公民館連合会、福岡県公民館連合会、  
福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会

## 4 後援

文部科学省、九州各県教育委員会、福岡県、北九州市、福岡県市長会、福岡県町村会、  
福岡県市町村教育委員会連絡協議会、福岡県社会教育委員連絡協議会、福岡県視聴覚協会、  
福岡県青少年問題協議会、福岡県地域婦人会連絡協議会、福岡県子ども会育成連合会、  
福岡県PTA連合会、福岡県文化団体連合会、福岡県明るい選挙推進協議会、福岡県金融広報委員会

## 5 開催方法

動画配信による開催（全ての分科会を視聴可能）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため従来の参会する方法は中止いたします。

## 6 動画配信について

【配信開始日:令和3年 11月 8日(月) 9:00から】

【配信終了日:令和3年 11月 26日(金) 17:00まで】

## 7 対象者

- (1) 公民館関係者（公民館長、公民館主事及び公民館職員、公民館運営審議会委員、自治公民館関係者  
コミュニティ施設職員等）
- (2) 教育委員会関係者（教育委員、社会教育委員、教育委員会職員等）
- (3) 社会教育関係団体関係者及び社会教育施設関係者
- (4) 市町村部局関係者及びその他行政機関の関係者（市町村長、市町村議会議員等含む）

- (5) 学校教育関係者（管理職、教諭、PTA関係者等）  
 (6) 教育・スポーツ・文化・NPO関係者  
 (7) その他、生涯学習・公民館活動・地域づくりに興味・関心がある方

## 8 申込人数

1, 500人

## 9 大会参加費

1, 000円

## 10 動画配信の構成

(1) 主催者挨拶

(2) 分科会

| 分科会 | テーマ                                  | 事例発表者      |             | 助言者  |
|-----|--------------------------------------|------------|-------------|------|
| 1   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>地域・学校・家庭が連携・協働した活動 | 熊本県        | 福岡県<br>八女市  | 熊本県  |
| 2   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>家庭教育・子育てを支援する活動    | 長崎県        | 福岡県<br>鞍手町  | 長崎県  |
| 3   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>人生100年時代へ対応するための活動 | 宮崎県        | 福岡県<br>吉富町  | 宮崎県  |
| 4   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>誰一人取り残さないまちづくり     | 福岡県<br>篠栗町 | 福岡県<br>筑紫野市 | 福岡県  |
| 5   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>自治公民館活動            | 沖縄県        | 福岡県<br>福智町  | 沖縄県  |
| 6   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>青少年の成長と自立を促す活動     | 鹿児島県       | 福岡県<br>久留米市 | 鹿児島県 |
| 7   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>防災や防犯のまちづくり        | 大分県        | 福岡県<br>北九州市 | 大分県  |
| 8   | 持続可能な地域づくりに向けた<br>コロナ禍における公民館活動      | 佐賀県        | 福岡県<br>福岡市  | 佐賀県  |

- (3) 記念講演 講師 NGOPeshaワール会 会長 村上 優 氏  
 インタビュアー 九州女子大学 教授 大島 まな 氏  
 演題 「中村哲氏の遺したものと社会教育 ～持続可能な地域づくりのために～」

(4) 来年度開催地あいさつ 鹿児島県

# 研究大会 分科会

## 【分科会構成】

| 分科会名  |                                  | 討議のテーマ                                                                                                                                      | 事例発表者  |         | 助言者  |
|-------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|------|
| 第1分科会 | 持続可能な地域づくりに向けた地域・学校・家庭が連携・協働した活動 | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○連携・協働していく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】地域学校協働活動 連携・協働のための仕組みづくり など    | 熊本県    | 福岡県八女市  | 熊本県  |
| 第2分科会 | 持続可能な地域づくりに向けた家庭教育・子育てを支援する活動    | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○支援していく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】家庭教育支援 家庭と地域のつながりづくり など           | 長崎県    | 福岡県鞍手町  | 長崎県  |
| 第3分科会 | 持続可能な地域づくりに向けた人生100年時代へ対応するための活動 | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○対応していく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】高齢社会への対応 リカレント教育 現代的・社会的課題への対応 など | 宮崎県    | 福岡県吉富町  | 宮崎県  |
| 第4分科会 | 持続可能な地域づくりに向けた誰一人取り残さないまちづくり     | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○まちづくりをすすめていく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】人権の尊重 SDGsに向けた取組 など         | 福岡県篠栗町 | 福岡県筑紫野市 | 福岡県  |
| 第5分科会 | 持続可能な地域づくりに向けた自治公民館活動            | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○活動していく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】住民参画 住民自治 など                      | 沖縄県    | 福岡県福智町  | 沖縄県  |
| 第6分科会 | 持続可能な地域づくりに向けた青少年の成長と自立を促す活動     | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○活動していく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】青少年の見守り 体験活動 青少年の社会参画 など          | 鹿児島県   | 福岡県久留米市 | 鹿児島県 |
| 第7分科会 | 持続可能な地域づくりに向けた防災や防犯のまちづくり        | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○まちづくりをすすめていく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】防災・防犯の仕組みや組織づくり、意識化の取組 など   | 大分県    | 福岡県北九州市 | 大分県  |
| 第8分科会 | 持続可能な地域づくりに向けたコロナ禍における公民館活動      | ○活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。<br>○活動していく上で気を付けている点は何か。<br>○今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。<br>【主な視点】3密を避けた取組 ICT 機器を活用した取組 など         | 佐賀県    | 福岡県福岡市  | 佐賀県  |

※ここで言う「持続可能な地域づくり」とは、「学びと活動の好循環」が一過性になってしまったり、形骸化してしまったりせずに継続・発展し続けるように、「人づくり・学びづくり・地域づくり」が行われること

|       | 発表者                                                                                                                                                         | 発表者                                                                              | 助言者                                                             | 司会者                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 第1分科会 | 熊本県八代郡<br>氷川町立竜北東小学校<br>学校運営協議会委員会<br>会長 <b>中園 庸子</b><br>熊本県<br>氷川町教育委員会<br>生涯学習課<br>地域学校協働活動推進員<br><b>古閑 由美</b><br>熊本県八代郡<br>氷川町立竜北東小学校<br>校長 <b>高野 将秀</b> | 福岡県<br>八女市黒木公民館<br>館長 <b>安徳 和幸</b>                                               | 熊本県教育庁<br>市町村教育局社会教育課<br>県統括アドバイザー<br><b>山平 敏夫</b>              | 福岡県教育庁<br>南筑後教育事務所<br>主任社会教育主事<br><b>藤岡 忠司</b>                    |
| 第2分科会 | 長崎県諫早市<br>小栗公民館<br>社会教育指導員<br><b>山本 博美</b>                                                                                                                  | 福岡県鞍手町教育委員会<br>教育課文化振興係<br>主査 <b>梶栗 愛民</b><br>福岡県鞍手町<br>文庫連絡会<br>会長 <b>由衛 久子</b> | 長崎県教育庁<br>生涯学習課<br>参事 <b>椋本 博志</b>                              | 福岡県教育庁<br>北九州教育事務所<br>主任社会教育主事<br><b>江崎 義朗</b>                    |
| 第3分科会 | 宮崎県都城市<br>山野原自治公民館<br>館長 <b>亀田 福二</b>                                                                                                                       | 福岡県吉富町教育委員会<br>教務課<br>係長 <b>高尾 広篤</b>                                            | 宮崎県教育庁<br>生涯学習課<br>課長補佐 <b>猪野 貴一</b>                            | 福岡県教育庁<br>京築教育事務所<br>主任社会教育主事<br><b>土肥 伸晃</b>                     |
| 第4分科会 | 福岡県糟屋郡<br>篠栗町北勢門校区<br>地域づくり協議会<br>会長 <b>野見山 宏孝</b>                                                                                                          | 福岡県筑紫野市<br>みかさ台公民館<br>館長 <b>久木田 正比古</b>                                          | NPO法人ドネルモ<br>事務局長 <b>宮田 智史</b>                                  | 福岡県教育庁<br>福岡教育事務所<br>主任社会教育主事<br><b>河野 和道</b>                     |
| 第5分科会 | 沖縄県八重山郡<br>竹富町西表島祖納公民館<br>総務企画部長<br><b>荒木 和友</b>                                                                                                            | 福岡県田川郡<br>福智町第26区<br>生力ニュータウン公民館<br>館長 <b>阿世賀 寛行</b>                             | 沖縄県社会教育委員<br><b>西村 友三郎</b>                                      | 福岡県教育庁<br>筑豊教育事務所<br>主任社会教育主事<br><b>坂本 真一</b>                     |
| 第6分科会 | 鹿児島県<br>阿久根市教育委員会<br>生涯学習課<br>主幹兼社会教育係長<br><b>南 健</b>                                                                                                       | 福岡県久留米市<br>善導寺コミュニティ振興会<br>「チャレンジ子ども土曜塾」<br>運営委員会<br>委員長 <b>田中 美佐子</b>           | 鹿児島県教育庁<br>社会教育課<br>主任社会教育主事<br>兼生涯学習係長<br><b>尾ノ上 義直</b>        | 福岡県教育庁<br>北筑後教育事務所<br>社会教育主事<br><b>西田 俊輔</b>                      |
| 第7分科会 | 大分県<br>日田市天瀬公民館<br>館長 <b>高倉 誠二</b>                                                                                                                          | 福岡県北九州市立<br>平野市民センター<br>館長 <b>伊藤 須美子</b>                                         | 大分県教育庁社会教育課<br>生涯学習推進班<br>課長補佐(総括)<br>兼主任社会教育主事<br><b>馬場 尚登</b> | 福岡県北九州市<br>市民文化スポーツ局<br>地域・人づくり部生涯学習課<br>社会教育担当係長<br><b>野田 久敏</b> |
| 第8分科会 | 佐賀県<br>佐賀市立勤興公民館<br>主査 <b>中野子 清輔</b>                                                                                                                        | 福岡県福岡市<br>別府公民館<br>館長 <b>小森 貴一郎</b>                                              | 佐賀県立生涯学習センター<br>事業部長 <b>関 弘紹</b>                                | 福岡県立<br>社会教育総合センター<br>主任社会教育主事<br><b>水落 義行</b>                    |



## 第1分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# 地域・学校・家庭が連携・協働した活動

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

地域学校協働活動

連携・協働のための仕組みづくり など

### ◎事例発表者

ふるさとを愛し、夢をもって学び続ける児童の育成  
～CSと地域学校協働本部との連携・協働～

熊本県八代郡氷川町立竜北東小学校 学校運営協議会 会長  
熊本県氷川町教育委員会生涯学習課 地域学校協働活動推進員  
熊本県八代郡氷川町立竜北東小学校 校長

中園 庸子  
古閑 由美  
高野 将秀

持続可能な地域学校協働活動事業に向けて  
～地域と学校をつなぐ公立公民館の取組～

福岡県八女市黒木公民館 館長

安徳 和幸

### ◎助言者

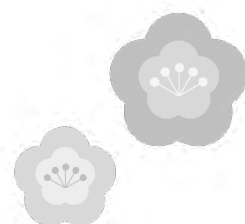
熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 県統括アドバイザー

山平 敏夫

### ◎司会者

福岡県教育庁南筑後教育事務所 主任社会教育主事

藤岡 忠司



# ふるさとを愛し、夢をもって学び続ける児童の育成

## ～CSと地域学校協働本部との連携・協働～

熊本県八代郡氷川町立竜北東小学校  
学校運営協議会 会長 中園 庸子  
地域学校協働活動推進員 古閑 由美  
校長 高野 将秀

### 1 はじめに

竜北東小学校学校運営協議会では、これまで児童の学習支援や家庭教育支援等の課題について熟議を重ね、解決に向けた活動に取り組んできたが、その原動力となっているのが地域学校協働本部である。

氷川町の地域学校協働本部には3人の推進員が配置され、町内の5小・中学校(全ての学校がコミュニティ・スクール)における地域学校協働活動をコーディネートしている。3人の推進員の存在が、学校運営協議会の活動の充実・発展に大きく寄与しているといっても過言ではない。

本学校運営協議会は、発展性を大切にし、取組を進化させるようにしている。これまで地域から様々な支援を受けてきた児童が、現在は主体的に地域のためにできることを検討し、地域貢献活動に取り組んでいる。併せて、平成30年度からは地域学校協働本部との連携・協働のもとで起業体験活動にも取り組み、児童の職業観・勤労観を育成するとともに、児童が地域の良さを再発見し、郷土愛を育むことを目指している。

### 2 活動内容

#### (1) 地域とともにあるコミュニティ・スクール

##### ～地域の声、地域の思いを大切にする～

本学校運営協議会は、活動の原点として、地域の思いを大切にするようにしている。児童が地域貢献活動を行う際にも、学校の思いだけでなく、地域住民の声を聴き、地域とともに活動を創り上げている。

そのために、学校運営協議会委員を選定する際には、地域の声が得られるような地域住民をメンバーに加えるとともに、町の地域学校協働活動推進員の1人も委員として参画するようにお願いしている。

年間5回程度開催される学校運営協議会の会議を中心に、校長が示す学校経営方針、目指す子ども像を共有し、地域総がかりで児童の育成を図る取組を進めている。その中で、地域の声や思いを大事にすることは、持続可能なコミュニティ・スクールづくりに必要不可欠である。

#### (2) 中学生との交流会

##### ～ふるさとの未来を語り合う～

氷川町には、5校全ての学校運営協議会をつなぐ携協議会が設置されており、平成31年度から中学卒業時の理想像を描く「15の春を輝かせる」を統一テーマに取り組んでいる。その一環として、中学校区拡大大学校運営協議会の位置づけもあり、小中が連携した取組も進めている。

本中学校区は、2小1中で構成されており、児童生徒と一緒に地域の歴史や良さを学びながら、ふるさとの未来について語り合う交流会を続けている。この取組は、中学校区拡大大学校運営協議会が主体となって企画し、運営している。

この交流会は、中学生にとってはリーダーシップを発揮する場として、小学生にとっては先輩への憧れを抱き、未来の自分の理想を描く場となる。そのような場において、ふるさとの繁栄をもたらした先人の努力や足跡を児童生徒に学ばせることで、ふるさとを愛する心を育むとともに、自らの生き方に夢を持つ子供の育成を図っている。

#### (3) 起業体験活動

##### ～地域の良さを再発見し、郷土愛を育む～

平成30年度には、文部科学省委託事業「小・中学校等における起業体験推進事業」の指定を受け、地域住民の支援を受けたキャリア教育に取り組んだ。次年度以降も起業体験活動を総合的な学習の時間の中心に据え、社会に開かれた教育課程として児童の資質・能力を高める実践を継続している。



【地元の農業高校と連携した商品開発】

この起業体験活動では、「夢」を持つことを大切に、児童が多くの「人・もの・仕事」に出会えるようにしており、それを実現するために3人の地域学校協働活動推進員が大きな役割を果たしている。推進員のコーディネートによって、地域の中の様々な産業に携わる人々と児童がつながり、多様な起業体験が可能となっている。

地域には吉野梨をはじめ多くの特産品があり、それらを使った商品を地元の農業高校や企業等と連携して研究・開発を行うことができています。また、これらの取組の成果を発信する場として、学校運営協議会が中心となって「いきいき感謝祭」を企画・運営している。児童と地域住民がつながる機会を設定することで、コミュニティ・スクールの地域広報につながり、さらなる地域住民の参画を得た「地域とともにある学校づくり」を進めることができています。

#### (4) 地域貢献活動

##### ～氷川町民の一員として地域を盛り上げる～

氷川町では、地域住民のよりよい交流の場として様々な行事が開催される。その中核となるのが「氷川まつり」である。その中で児童が起業体験活動で開発した商品(先述)を販売し、多くの地域住民に喜んでもらうことができた。児童も祭りの成功に貢献できたという充実感を味わい、氷川町民の一員として地域の活性化を担う喜びを感じている。



【「氷川まつり」で活躍し、地域に貢献】

一方、「地域貢献活動の場」は、児童の活動を支援する学校運営協議会委員をはじめ地域学校協働活動推進員、地域住民にとっても、「やりがい」や「生きがい」を感じる場となっており、地域全体が元気になっている。まさに、学校を核とした地域づくり(スクール・コミュニティ)を進めることができていますと考える。

また、町外から多くのランナーを迎えて開催される「氷川・梨マラソン」では、応援用の団扇や横断幕・立て看板づくりにも取り組んでいる。学校運営協議会内にワーキングチームを組織し、地域住民の協力

を得ながら、全校児童が地域貢献活動を行うことができるように支援を行っている。これも学校の年間活動計画に位置づけておくことで、持続的な取組になっている。

### 3 評価・成果

本学校運営協議会では、地域学校協働本部と緊密に連携・協働しながら地域総がかりの教育活動を展開している。保護者へのアンケートでは、「地域の方々の協力で、子供たちは大きく成長している。」「様々な体験活動で、どの子もいきいきと活動していて感心した。元気をもらった。」等の意見があり、地域と一体となって行う地域学校協働活動は、児童の健全育成に大きな成果を上げていると言える。

また、全国学力・学習状況調査(平成31年度)の児童質問紙調査の結果における、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目で肯定率88.9%(全国平均68.0%)という高い数値を示している。これは、地域学校協働活動を充実させることによって、児童が地域への関心を高め、地域に貢献しようとする気持ちやふるさとを大切にする思いを持つようになってきた証であると考えている。

### 4 今後の課題

氷川町立竜北東小学校は、平成18年度からコミュニティ・スクールとして活動をはじめ、現在3人の地域学校協働活動推進員のコーディネートのもとで、学校と地域が連携・協働して児童の健全育成を進めている。また、児童たちの活躍が地域活性化にもつながり、学校と地域の双方にメリットとなり、持続可能な地域学校協働活動となっている。

この取組が今後も続いていくためには、若い力の取り込みが必要となる。学校運営協議会委員にも若手を招き入れ、意志を受け継いでいくようにしなければならない。また、地域学校協働活動の担い手となる地域住民の参画という点でも、現役の親世代を含め、幅広い世代の力が欲しい。特に、PTAを中心とした家庭との連携が重要になると考える。

氷川町では、保護者や地域住民への更なる広報を進め、若い世代の参画を得るために、令和2年度からコミュニティ・スクールの日(CSの日)を設定した。コロナ禍でのスタートとなったが、持続可能な地域づくりをさらに進めるために、本学校運営協議会も活動の充実を図っていきたい。

# 持続可能な地域学校協働活動事業に向けて

## ～地域と学校をつなぐ公立公民館の取組～

福岡県八女市黒木公民館

館長 安徳 和幸

### 1 はじめに

#### (1) 八女市の概要

八女市は福岡県の南部、福岡市から南へ約 50 キロメートルに位置し、北は久留米市、広川町、西は筑後市、南は熊本県、東は大分県に接している。面積は、平成 22 年の近隣 2 町 2 村との合併後 482.44 平方キロメートルとなり、総面積が県内 2 位となった。最古の歴史書「日本書紀」に“この地方に女神（めがみ）あり、その名を八女津媛といい、常に山中にある”という一節が、八女という地名の由来と言われている。また、岩戸山古墳をはじめ多くの古墳が広がっており、江戸時代には八女地方の物産集積地として栄え、政治・文化などの中心地だった。現在も伝統工芸の里であり、農産物も豊富な地域でもある。

#### (2) 八女市における地域学校協働活動の現状

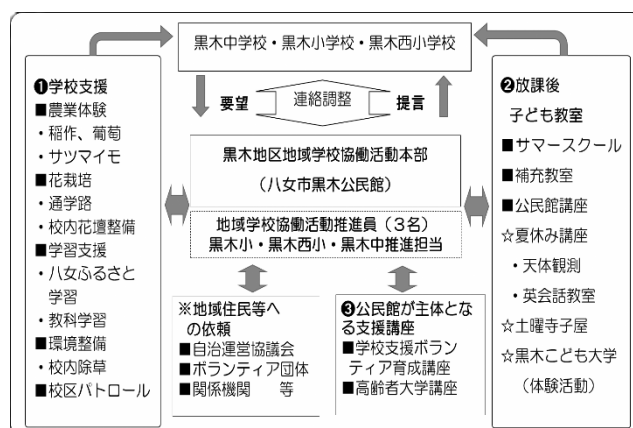
平成 30 年度より取組が始まった八女市の地域学校協働活動は、令和 2 年度で 3 年目を迎え、12 の協働本部、20 の小中学校・義務教育学校で活動が実施された。令和 3 年度には、さらに 2 つの小中学校区に設置され、市内全ての小中・義務教育学校での実施となる。八女市の公立公民館 8 館は全面的に地域学校協働活動を支援していくことを確認し、公民館と学校がお互いに「知り合う」取組を実践し始めている。具体的には、講座等を通じて、公民館が子ども達や教職員と関わることで、互いに顔を見合わせることからスタートさせようと努めている。

#### (3) 協働活動本部としての八女市黒木公民館

これまで「学社連携」「学社融合」を理念とした取組が必要であることは理解されている。しかし、方向性は分かっているが取組に関しては学校も地域も「その一歩」が出ず、不十分であった。「学社連携」「学社融合」の実現には、学校と地域をコーディネートしていくパイプが必要である。そのためには「地域づくりの拠点である公民館が「学校」と「地域」のパイプ役として公民館の機能を強化していく

ことが最善であると考えた。これまで行われている「学校支援」をベースに継続・発展させることで、「学校づくり」だけでなく「地域づくり」への波及をめざしていくことにもつながる。いわゆる Win-Win の関係が構築できる。これまで公民館が培ってきた「強み」である「地域のひと・もの・ことへの対応力」や「公民館の三つの機能(つどう・まなぶ・つなげる)」が、学校と地域をつないでいく原動力となると考えた。

また、新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域の公民館としてお手伝いが出来たら、学校と地域の互惠関係は更に強固になると考えている。



### 2 パイプ役としての八女市黒木公民館の取組

#### (1) 令和 2 年度アンケート結果から

各公民館館長や教職員を対象に、地域学校協働活動についてアンケートを実施した。その結果から、地域や学校・PTAが、地域学校協働活動について十分には理解できていないことがわかった。

その課題解決のために、学校・協働本部・行政のそれぞれが機会を生かし、事業の説明を丁寧に行うことが必要である。そして、公民館として、事業の内容や様子等を保護者や地域へ発信していくことが効果的であると考ええる。



## (2) 持続可能な地域学校協働活動を目指して

特に充実した協働活動のカギを握るのは、何よりコーディネーターとしての推進者の実働とパイプ役として関わっていく公民館のリーダーシップと考える。

以下の3つのアプローチを推進者と公民館が共有し、主体的に取り組むことを通して、持続可能な地域学校協働活動として継続することを目指している。

### ア【とらえる】アプローチ

- 学校・地域の現状や願いを把握する。

### イ【見通す】アプローチ

- 学校運営協議会と連携し、ゴールとなる子どもの育ちを意図した活動に練り上げていく。
- 地域情報を整理し、学校や公民館等で共有できる体制を作る。

### ウ【巻き込む】アプローチ

- 公民館講座等の工夫改善…より多くの地域住民に学校への興味関心を持たせる。
- 地域住民が子どもと関わりを持つ場の設定(子どもの出番・役割・立場づくり)

## (3) 推進員・本部が地域と学校をつなぐ事例

### ア 地域学校協働活動事例【学校支援】

黒木西小学校では、12種類の菖蒲苗200株(今後500株植栽予定)を植栽した。

推進員は、校区の豊岡地区自治運営協議会による菖蒲の里づくりの企画に、黒木西小学校児童の参加を呼びかけた。全児童が参加し、植栽だけでなく、定期的な草取りにも参加している。(R1年度取組スタート、現在継続中)

### イ 地域学校協働活動事例【放課後学習支援】

小・中学校サマースクール・補充学習へのボランティア人材を派遣し、子ども達の学習支援活動を実施している。

## (4) 公民館講座で地域と学校をつなぐ事例

### ア 学校支援ボランティア人材育成講座

コミュニティスクールや地域学校協働活動実施校からの学習支援等の要請に対応できる地域人材育成の講座を企画している。そこでは、丸つけ支援の対応・読み聞かせの仕方・子どもへの声かけポイント等についての講義や学校ボランティア体験を講座内容に位置づけ実施している。

| 回  | 期日                   | 学習テーマ                                    |
|----|----------------------|------------------------------------------|
| 1回 | 7/12<br>10:00~11:30  | 学校支援とは<br>南筑後教育事務所社会教育主事                 |
| 2回 | 8/9<br>10:00~11:30   | 子どもが興味を示すアイスブレイクのテクニック<br>南筑後教育事務所社会教育主事 |
| 3回 | 9/13<br>10:00~11:30  | 発達に課題のある子どもとのかかわり方<br>八女市 小学校校長          |
| 4回 | 10/11<br>10:00~11:30 | 学校図書館とボランティア活動<br>八女市立 図書館館長             |
| 5回 | 11/8<br>10:00~11:30  | 子どもの人権について<br>八女市立 隣保館館長                 |
| 6回 | 12/13<br>10:00~11:30 | ボランティア体験と学校支援<br>八女市 小学校主幹教諭             |

【学校支援ボランティア人材育成講座プログラム】

※R2年度…休講、R3年度…保育で教室として開設

### イ 高齢者講座のアウトリーチ活動

黒木大学(高齢者講座)では、地域の小・中学校との連携・協働を視野に入れた学習プログラムを意図的・計画的に企画・実践している。

高齢者講座の第5回のボランティア体験・ふれあい体験ではアウトリーチ活動として、講座生による黒木小学校の子どもたちへの読み聞かせを実践した。



【アウトリーチ活動(講座生による読み聞かせ)】

## 3 活動を通しての効果

地域学校協働活動推進の効果としては、公民館がパイプ役となることで、地域の多様な経験や技能を持つ人材や公民館利用団体等と連携した支援体制づくりの基盤ができた。また、公民館で学校支援につながる分野の講座を開催することで、地域ボランティアの志をもった人材の発掘と人材育成を図ることもできた。

## 4 今後の課題

今後の課題は、学校と地域とがつながりを更に密にし、子ども達の教育環境の向上、地域の活性化につなげていくためのボランティア人材確保の継続である。そこで、地域住民の主体的な関わりを旺盛にする啓発活動の取組を継続し、持続可能な活動に高めていきたい。

## 第2分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# 家庭教育・子育てを支援する活動

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

家庭教育支援 家庭と地域のつながりづくり など

### ◎事例発表者

まなびあい そだちあい  
～家庭教育支援 愛のカタチ～

長崎県諫早市小栗公民館 社会教育指導員

山本 博美

こんな時代だからこそ 家庭に読み聞かせを  
昭和から平成、令和へ鞍手町文庫連絡会の活動報告

福岡県鞍手町教育委員会 教育課文化振興係 主査  
福岡県鞍手町文庫連絡会 会長

梶栗 愛民  
由衛 久子

### ◎助言者

長崎県教育庁生涯学習課 参事

椋本 博志

### ◎司会者

福岡県教育庁北九州教育事務所 主任社会教育主事

江崎 義朗



# まなびあい そだちあい

## 家庭教育支援 愛のカタチ～

長崎県諫早市小栗公民館

社会教育指導員 山本 博美

### 1 はじめに

#### (1) 諫早市の概要

諫早市は、長崎県の中央に位置

し、人口 133, 104 人を有する本県第 3 の都市である。有明海・橘湾・大村湾の 3 つの海に面し、自然に恵まれているが、田舎すぎず、都会過ぎない子育てしやすい街である。

市内には、「人が育つ地域をつくる生涯学習」を理念とした 15 公民館があり、13 人の社会教育指導員が配置されている。また、地域で支えあう仕組みづくりを築いていくことを目的とする市社会福祉協議会主体の子育てサロンが 18 ヶ所ある。

#### (2) 小栗公民館の概要

諫早市のほぼ中央に位置し、3, 300 世帯、約 1 万人が住んでおり、2 つの小学校がある。「集い、学び、結ぶ」を目標とした公民館講座は、令和元年度 86 講座、2, 387 名の参加があった。令和 2 年度は、コロナ禍でも学びを持続する必要性があることから、工夫して 67 講座を開講し、1, 221 人の参加があった。

### 2 活動の内容

#### (1) 小栗公民館「家庭教育講座」の実践

##### ア「どんぐりっこ」

市内 6 ヶ所に設置されている地域子育て支援センター「いちご」が地区内にあり、共催事業を行っている。保育士による未就園児親子のふれあいを目的とした講座が月 2 回、10 年続いており、地区民生委員が子守りのお手伝いを担っている。雨の日でも広いホールで遊ぶことができ、季節の行事やパネルシアター、楽器遊び等を楽しんでいる。



【どんぐりっこ節分行事】

##### イ「子育て親育ち講座」

自然体験活動を目的とした、親子ブルーベリ

ー狩りの後に、親向けワークショップで、子育ての仲間づくりを行った。また、食育を目的とした調理実習の後に、栄養士と指導員が座談会形式で子どもの食事について話をした。「同世代で話せてよかった」「親子の関わり大切さや子育てにおける食事の悩みが相談できてよかった」との感想が寄せられた。

#### ウ 子育て応援講座（託児付）

婦人会の協力により、母親が学ぶ時間を確保し、日々の家庭生活を支援するための講座を行った。

- ・「野菜嫌いの子どものためのスムージー教室」
- ・「子どもに優しいアロマの抗菌消臭スプレー」
- ・「長崎県産魚の栄養特性とさばき方」
- ・「諫早の郷土料理を若い世代へ」 など



【婦人会の託児ボランティア】

ニーズの高い託児付の講座は、子育ての先輩である婦人会の方々が、子育ての知恵を伝授する様子が見られる。婦人会の方にとっても、現代の子育てを知るきっかけにもなっており、必要とされる喜びとやりがい、生きがいにもつながっている。

#### エ「学びあい、育ちあい講座」

コロナ禍での子育てでは、制限が多く、不安をもつ保護者も少なくない。そんな中での家庭教育講座においては、参加者の悩みを引き出したり、話し合いの中から解決策を出し合ったりすることが求められる。そのために、本講座では、家庭教育アドバイザーが講座の中で子育てのアドバイスを行った。（生活リズム、早寝早起き朝ごはん、睡眠、子どもとメディア、絵本、乳幼児期の脳、食育など）。

参加者は、子育ての不安や悩みを語り合い、自分だけじゃないという安心感と共感を得るこ

とができた。

## (2) 諫早市全体での実践

### ア ながさきファミリープログラムの活用

諫早市では、参加者が主役の子育て学習プログラム「ながさきファミリープログラム（※以下NFP）」の活用を進めている。NFPは、県が認定したファシリテーターが進行を務めるワークショップを通して、参加者同士がテーマに沿った話し合いを進め、子育てについて学び合う場である。また、NFPに家庭教育アドバイザーが加わることで、参加者同士の気づきにプラスした学びと子育てのヒントを得ることができる。

### イ 社会教育指導員合同研修会

2ヶ月に一度開催される研修会で、指導員自身に、「ながさきファミリープログラム」を体験してもらった。その後、市内の公民館で取り入れられることになり、3公民館で出前講座を行った。

- ・子育て力アップ講座（西諫早公民館）
- ・子どもとの関わり方（森山公民館）
- ・ママのおいとまXmasティーパーティー（高来公民館）



【ながさきファミリープログラム】

### ウ 諫早市指導員企画合同講座

子どもを取り巻く環境の変化は厳しく、子どもの貧困と虐待の増加も社会問題になっている。サポートの必要な家庭や環境に恵まれない子どももいることから、現状を知る合同講座を企画した。



【パパ、ママ地域とともに育む子どもの未来】

各公民館から呼びかけた、民生委員、健全育成会、PTA、学校関係者、地域の方々が参加し、諫早市子ども支援課の職員による虐待の現状とスクールソーシャルワーカーによる子ど

もの権利等を学び、ワークショップで「私たちにできること」を話し合い、共有し、それぞれの地域に持ち帰った。

## 3 評価・成果

小栗公民館において、様々な家庭教育講座を実施することで、参加者が自分の子育てを振り返り、子育てにおける学びを深め、子どもと共に成長する意識が高まっている。また、現在、諫早市の公民館では、「ながさきファミリープログラム」を活用した家庭教育講座が増え、単なるふれあい体験に終わるのではなく、保護者への学びがしっかりと届けられる講座が市内の公民館に広がっている。

今、子育てが困難な時代において、社会全体で家庭教育を支援する必要性を強く感じる。小栗公民館では、今後も引き続き、家庭教育支援に力を入れていきたい。今年度は、諫早市指導員合同講座での学びを活かし、持続可能な地域づくりに向けて、下記の講座を予定している。

＜地域でできる支援のカタチ「多文化交流講座」＞

小栗地区に外国籍の家族が移住された。母親は、日本語が話せず、不安もあるだろうという声があがっている。そこで、母親が地域に馴染めるためにも、公民館がコーディネート役となり、ママ友を作るきっかけとなるよう、母親に料理を習い、食で交流しながら、参加者がお互いの文化と子育てを学ぶ機会にしたい。

## 4 今後の課題

家庭教育とは、すべての教育の出発点であり、子どもが生まれて最初に受ける教育である。家庭の教育力を高めるための講座を企画することが必須であるが、本当に必要な人に届いていないのが現状である。その解決のためには、情報の発信、講座の創意工夫、職員のスキルアップが必要である。また、子どもから大人まで一緒に学びあい、育ちあうことのできる地域づくりを構築するためには、子どもを真ん中に置いて、子どもに関わる人々や団体が連携・協働し、「横ぐし」をさして支援するいろいろなカタチが必要だと考える。

諫早市には、持続可能な地域社会と介護予防を目的とする地域包括支援センターが主体の「語らんば」が開催されている。公民館も一緒に参画し、地域の中で赤ちゃんから高齢者まで一緒にとらえたインクルージョンな地域づくりを考えることが課題である。そのため家庭教育支援の愛のカタチを今後も模索していきたい。



# こんな時代だからこそ 家庭に読み聞かせを

## 昭和から平成、令和へ鞍手町文庫連絡会の活動報告

福岡県鞍手町教育委員会

教育課文化振興係

主査 梶栗 愛民

鞍手町文庫連絡会

会長 由衛 久子

### 1 地域の概要

福岡県の北東部、都市部より自動車で 30 分の福岡市と北九州市のちょうど中間部に位置する鞍手町は、北東部に遠賀川が流れており、かつては石炭産業が盛んな地域でした。その後、石炭産業の衰退化などもあり、現在では巨峰栽培や水稻栽培など、農業が盛んで、地域の人口は、約 15,000 人、世帯数 7,400 世帯、高齢化率 38%の豊かな自然に囲まれた地域です。

### 2 鞍手町文庫連絡会のはじまり

町の特色ある事業のひとつとして、長い間町内で読み聞かせ事業を行っている鞍手町文庫連絡会の活動を報告します。

活動の始まりは、昭和 55 年（1980 年）4 月にさかのぼります。当時の町教育委員会指導員が、地域で子どもの読書活動に取り組む「長谷子ども読書会」を読書仲間とともに立ち上げました。

その後、同指導員が昭和 57 年（1982 年）に鞍手町中央公民館の講座で「こどもの本の学校」を開設。毎回、子どもたちのための絵本について学んだり、子どもの読書に関するさまざまなテーマを決めて学習をしたりしました。この講座の受講生は、ほとんどが子育て中のお母さん方でした。

「こどもの本の学校」がきっかけとなり、受講生の方々は自分自身の子どもへの読み聞かせだけでなく、それぞれの居住地域で子どもの読書活動を進めていくために、町内各地で「文庫」を立ち上げました。そして多い時には鞍手町内 17 箇所で「文庫」が展開されました。さらに、受講生の活動は朗読会や絵本を読む会、おとなの読書会や朗読サークルへと派生し、活動の幅を広げていきます。

このような中、鞍手町内各地域で個別に行われていた読書会の相互連絡や、子どもの読書普及活動を協力して進めていくために、平成 2 年（1990 年）に鞍手町文庫連絡会が結成されました。

### 3 日常的な活動内容（読み聞かせの対象は乳幼児から高齢者まで）

耳からおはなしを聞くことは読書の第一歩です。鞍手町文庫連絡会は読書の大切さや楽しさを、幅広い年代の方々に知ってもらうために、日常的に以下のような活動をしています。

#### （1）乳幼児向けブックスタート事業

乳幼児向け（4 ヶ月健診時）ブックスタート事業では、ボランティアによる赤ちゃんへの絵本の読み聞かせを実践し、絵本を通じて、若いお母さんやお父さんに親子のふれあいの大切さなどを伝えています。

#### （2）小学校と保育所での読み聞かせ事業

町内小学校（6 校）と保育所での読み聞かせ事業では、ボランティアグループが各小学校・各保育所へ出向き、低学年から高学年まで年齢に応じた本を選び、様々な形で読み聞かせを行っています。

#### （3）町内老健施設での読み聞かせ事業

町内老健施設（デイケアサービス）での読み聞かせ事業では、高齢者向けに昔話の朗読などを行っています。



【ブックスタート事業 絵本を見つめる赤ちゃん】

### 4 活動の成果や評価

読み聞かせ活動の効果・成果は目に見えにくいものなので、集中力・創造力を養うには長い時間がかかります。また、昭和から平成にかけて少子高齢化が進み、生活様式や家庭環境の変化（共働き世帯や核家族の増加）で、子どもや大人の生活スタイルが時代とともに

随分と変化してきました。

児童数の減少や働く女性の増加の影響で、文庫連絡会は次第に活動を継続していくことが難しくなりました。さらに、発足当初は「文庫」に子どもたちの方から来ていましたが、子どもたちが学習塾やスポーツ教室などで忙しくなると、次第に集まって来ることもなくなりました。

そこで、文庫連絡会では、自分たちが保育所や学校などに出向いて読み聞かせ活動を行うことにしました。それはまだ「読み聞かせ」という言葉が定着していなかった時代で、保育や教育の現場に一般の人が参加するという前例がありませんでした。そのため、当初は多くの困難もありましたが、この活動に向けた取組も次第に定着し、現在も町内全ての小学校で読み聞かせが行われています。

## 5 読書活動推進の課題

現在、家庭内で読書をする習慣が著しく減っているのではないのでしょうか。その理由として次のことが考えられます。

(1) 子どもたちが読書以外にテレビやゲームに夢中になることが増え、家族から昔話を聞き、兄弟や友人同士で対話することが極端に少なくなった。

(2) 子どもをもつ親に読書をする習慣がなく、分からないことを調べる時は、たとえ子育てに関することでさえ、手元にある携帯電話（スマートフォン）で解決してしまう。

(3) 子どもにも大人にも、読み聞かせを体験したり、読書を通して交流したりする機会や時間がなくなった。



【町内小学校で読み聞かせをするボランティア】

このように、家庭教育の視点から見ても、現在は様々な課題があります。また、高齢化しつつある文庫連絡会会員の後継者不足も大きな課題です。

この後継者不足解消のため、今後、以下の2点に取り組む必要があります。

一つは、保護者世代への働きかけです。これまで保育所や学校で読み聞かせを受けてきた子どもたちが、親になっています。その保護者たちへ声かけを行うことで、後継者不足の解消を目指します。

二つは、父親への働きかけです。これまで、読み聞かせは女性が行うものとイメージされていました。しかし、世間ではイクメン（育児に参加する男性）と呼ばれる父親が積極的に育児に参加するようになっていきます。実際、ブックスタート事業を実施している中で、若い父親の姿を目にするようになりました。子どもの読書活動においても、母親だけでなく、父親にも読み聞かせボランティアとして活動に参加してもらうことで、後継者不足の解消を目指します。

## 6 コロナ禍での活動

昨年春より新型コロナウイルス感染症の影響が日本中に広がっていきました。その影響は文庫連絡会の活動にもおよんでいます。

現在、残念ながら読み聞かせボランティアの活動は休止中です。そのためブックスタート事業の赤ちゃんたち、各学校の子どもたち、そして老健施設の高齢者の方々にもお会いすることができません。

そのような場合、オンラインを活用した会議や、学校の勉強が行われています。これらのように読み聞かせもオンラインで行えばよいのでしょうか。

そうではないと思います。このコロナ禍の時代だからこそ、オンライン上の画面越しではなく「必ず対面で行う」ことが大切だと思います。これは読み聞かせという活動が、人と触れ合うことで成り立つものだからです。

いまだコロナ収束の見通しは立ちませんが、早く元通りの生活に戻り、本来の読み聞かせの活動を再開していきたいと思います。

## 7 さいごに

鞍手町文庫連絡会会員は、子どもたちの笑顔と豊かな心の育ちを願い、心を込めて読み聞かせを続けてきました。子どもたちには、読み聞かせの心地よさをいつまでも忘れずにいてほしいと思います。

そして将来、親になったとき、新たな活動の担い手となってくれるよう願っています。

最後に、こんな時代だからこそ、この町に住む全ての赤ちゃんからお年寄りの方に読み聞かせの素晴らしさを知っていただきたいと思います。

## 第3分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# 人生100年時代へ対応するための活動

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

高齢社会への対応 リカレント教育 現代的・社会的課題への対応 など

### ◎事例発表者

人と人の和と輪・地域内の和と輪

宮崎県都城市山野原自治公民館 館長

亀田 福二

これからもいきいきと安心して暮らしていくために～終活講座のすすめ～

福岡県吉富町教育委員会 教務課 係長

高尾 広篤

### ◎助言者

宮崎県教育庁生涯学習課 課長補佐

猪野 貴一

### ◎司会者

福岡県教育庁京築教育事務所 主任社会教育主事

土肥 伸晃





# 人と人の和と輪・地域内の和と輪

宮崎県都城市 山野原自治公民館

館長 亀田 福二

## 1 はじめに

宮崎県の南西端に位置する都城市は、その昔、都城湖が始良カルデラの大噴火による火砕流で埋め尽くされ、シラスなどが厚く積もった上にできた盆地の中にある人口 16 万人ほどの人々が暮らす市である。盆地のため、夏と冬の寒暖差が大きく、冬は霧島から吹き下ろす「霧島おろし」と言われる冷たい風が吹き、夏は盆地特有の温度、湿度の高い日が続くことも多い。江戸時代は薩摩藩の一部であったこともあり、宮崎県では人口が 2 番目の市である現在でも文化や伝統などに薩摩藩の名残が感じられる部分も少なくない。

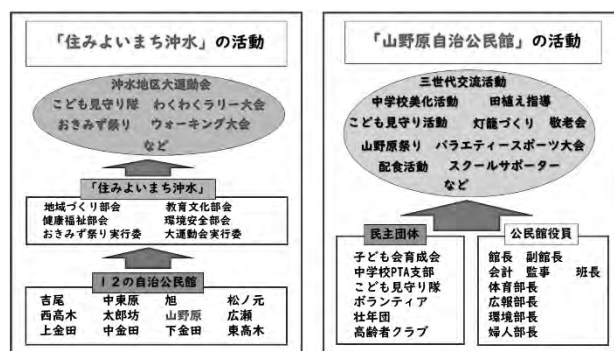
今回は、その都城市の中でも比較的平均年齢が低く、人口も多い沖水地区の活動とその沖水地区にある自治公民館の一つである山野原自治公民館の活動を組み合わせながら「人生 100 年時代へ対応するための活動」という分科会のテーマに基づき、継続可能な地域づくりに向けた活動について述べてい。

人生 100 年時代と言われるようになって久しい。日本の平均寿命、健康寿命ともに毎年着実に伸びており、元気な高齢者が増え、定年後も仕事を継続する人、新たな仕事に就く人などが増えてきた。しかし、そういった中でも定年という節目を迎え、職場という枠から外れた人々が社会や人々と関わり続けるための地域コミュニティはさらに大切な存在である。その一つとして重要な役割を担ってきたのが公民館活動である。ただ、この公民館活動も、ライフスタイルの変化など大きな価値観の転換が必要な時期に来ていることは確かである。それでも、同じ地域に住む人々が、自分の持っているよさを発揮しながら、いろいろな活動を通して関わり合い、よさを認め合いながら活動するという本質的な部分は変わらないと考える。今回の報告がそのような意味で皆様のお役に立てることを願っている。

## 2 活動内容

山野原自治公民館がある沖水地区には 12 の自治公民館があり、それぞれで自治公民館活動を行っている。

また、その 12 自治公民館が協力して「住みよいまち沖水」という大きな組織をつくり、その中で 4 つの部会と 2 つの実行委員会が独自に企画した活動を行っている。



【沖水地区の組織と活動】 【山野原自治公民館の組織と活動】

### (1) 山野原自治公民館の主な活動

それぞれの自治会が年間計画を作成し、創意工夫しながら活動している。特に精力的に活動しているのが高齢者クラブである。

#### ア 高齢者クラブの活動

高齢者、保護者、小学生の三世代がソバの種まきから収穫、ソバ打ちまでを一年かけて一緒に汗を流しながら活動する。ソバ打ちの体験やソバづくり、食事まで一緒に行う徹底ぶりである。さらに、小学校横の畑を使って、ヒマワリなどの植栽を小学校 2 年生と協力して行い、花をつけたときは、一緒に記念写真などをして喜びを分かちあっている。



【植栽活動における高齢者と小学生の交流の様子】



## イ ボランティアの活動

年に2回、お弁当を公民館で作り、地区内の高齢者宅に届ける活動を続けている。高齢者の安否確認と地域で見守っていることを知らせるための活動であるが、どこの高齢者からも大変歓迎され、地域の一員であることの喜びを感じているようだ。

## ウ 祭り実行委員会の活動（壮年団）

都城地方では、六月灯と呼ばれるお祭りが市内各所で開催される。神社を中心に行われるのだが、山野原には神社がないため、壮年団が実行委員会を組織し夏祭り（熱中症予防のため最近では秋に行っている。）を行っている。

公民館からの出し物や地域の有志の余興などが行われ、地域総出で祭りを楽しんでいる。子ども達にとっては夏の思い出として残る行事である。

## （2）住みよいまち沖水の主な活動

住みよいまち沖水の中にある4つの部会は、行事も企画するが、研修会を開催したり、地域の安全に関わる掲示物を作成して各館に配布したりしている。2つの実行委員会は、沖水地区の住民総がかりで行う運動会と、おきみず祭りという地区の文化祭を開催している。

## ア 沖水地区大運動会

地区内の自治公民館が一堂に会して行う運動会は、都城市内では沖水地区だけになった。戦後すぐから始められたもので、もう70回以上の開催となる。各自治公民館から選りすぐられた選手が競う内容もあるが、幅広い年齢層が楽しめる内容も多い。中学生もボランティアとして参加し、地域内にある企業（住友ゴム様）の職員も競技に参加する。運動会後の懇親会も盛大に行われ、地域のまとまりを感じさせる行事である。

## イ おきみず祭り

地域の大規模な文化祭である。12自治公民館の半分ずつが交代で、毎年ステージ上で熱のこもった出し物を披露する。並行して作品展示も行われ、地域の達人が絵画、書、写真を出したり、保育園・こども園の子ども達が作品を出したりして文化交流を行っている。

## 3 評価・成果

令和元年、山野原自治公民館は、都城志布志道路建設に伴い移転・新築され、ひとまわり大きな公民館が完成した。熱中症予防のためエアコンも設置し、手狭だった台所も3倍ほどの広さになり、公民館活動で調理をする時は大変重宝している。また、道路建設で移転することになった公園を公民館のすぐとなりに作った。おかげで、広い芝生で子ども達が遊ぶ姿を見ることができ、地域の高齢者は、新たに結成した山野原チームでグランドゴルフを毎週2回楽しんでいる。

現在はコロナ禍でほとんどの公民館活動が中止となり、公民館員同士の情報共有もままならない事態となり、公民館の存在意義が心配な状況である。

逆の視点から捉えなおすと、コロナ禍前は、地区住民同士のつながりを深め、お互いの存在意義や居場所づくりという点からは、公民館は大きな役割を果たしてきたと言える。配食で訪れた高齢者宅では、にこやかな表情で歓迎され、おしゃべりを楽しんだり、子ども達と高齢者との絆が深まったり、元気な壮年が地域で活躍する場が提供されることで、その存在意義が見直されたりしてきた。コロナ禍が収束したら、また活動を全力で再開して地域の皆様の輪を広げていきたい。

## 4 今後の課題

一番大きな課題は、30年以内に70%～80%の確率で起きるであろう南海トラフ大地震への対応である。インフラが寸断されると公助に期待することは難しくなる。災害直後しばらくの間は、自助、互助、共助で乗り切らねばならない。そのための地域コミュニティの中核となるのが、公民館活動であると考えている。公民館活動を通して人と人とを繋げる役目を果たしながら、ひとたび災害が発生したら、住民の安全のために中心となって動かざるを得なくなるだろう。また、被災した場面では、住民の支援にあたったり、公助との間をつなぐ役割を果たしたりすることもあり得る。

災害に向けた心構えも住民に伝えつつ、これからの社会の変化に対応する上で、地域の人と人のつながりを深めていくことは、とても大切であることを伝えていく必要がある。一刻も早くコロナ禍が収束し、さらにレベルアップした公民館活動が展開できることを願っている。

# これからもいきいきと安心して暮らしていくために

## ～終活講座のすすめ～

福岡県吉富町教育委員会 教務課  
係長 高尾 広篤

### 1 はじめに

#### (1) 町の概要

吉富町は、福岡県の東端に位置し、東は山国川を境に大分県中津市、西は海岸沿いに豊前市、南は上毛町に接している。人口は約6,690人で、面積は8.2km<sup>2</sup>の「九州で一番小さな町」である。「ひともゲンキ！まちも元気！」をフレーズに、北九州から50km圏内に位置する肥よくな土地を有する町である。

#### (2) 実施に至る経緯

令和元年度に一日教室として一回のみ「終活講座」を実施したところ、参加者のアンケートでの評価は高かったが、実際の活動として何をどうしたらいいのかということがわかりにくいことや、さらにいきいきと健康的に暮らしていただくため、令和2年度は通年教室（年6回）の一つとして実施していくこととなった。

#### (3) 通年教室（年6回、各2時間）の流れ

終活に対する理解を深めてもらうため、初回は終活の基本となる「エンディングノート」を配布し、記入の仕方や活用方法に関する講習を行い、2回目以降は老後の暮らし、遺言、生前整理、葬式の知識等、徐々に具体的かつ実践的な内容に関する講習を行うことで終活の知識や実践方法を習得してもらうようなプログラムを作成した。

#### (4) ねらい

持続可能な地域づくりに向けた新たな視点を提供するとともに、町民の方々がこれからも生き生きと生活するための知識や実践方法を身に付けることをねらいとしている。

### 2 活動内容

#### (1) 一日教室（令和元年度）

##### ア 「終活講座」

日時：令和2年1月28日（火）13：30～15：30

講師：久恒 恵美子 氏（福岡県金融広報アドバイザー）

老後のライフプランの参考としてもらうため、「家計管理」、「介護」、「エンディングノート」等について講習を行った。2時間の時間の中に、家計管理、介護、エンディングノートと内容が多く、参加者から「もっと一つ一つの具体的な内容を知りたい」「もっと詳しく学びたい」等の声が多く出ていた。また、「終活」に対する興味が高いことが分かった。

※エンディングノート … 人生の最終章を迎えるにあたり、自分自身の思いや希望を確実に家族などに伝えるためのノート



【令和元年度 終活講座の様子】

#### (2) 通年教室（6回、令和2年度）

##### ア 第1回

「エンディングノートを書いてみよう」

日時：令和2年7月22日（水）

講師：久恒 恵美子 氏（福岡県金融広報アドバイザー）

終活の基礎知識や終活の基本となるエンディングノートを配布し、ノートの書き方やセカンドライフ等について講習を行った。セカンドライフにかかる費用や平均寿命と健康寿命等の具体的な内容から、人生には終わりがあり、これからの人生を自分らしくいきいきと生きていくことの大切さを学んだ。

## イ 第2回

「フレイル予防 ～健康長寿の3つの柱～」

日時：令和2年7月30日（木）

講師：井本 俊之 氏（飯塚病院リハビリテーション部理学療法士）

健康長寿維持の一環として、フレイル（虚弱）について「栄養」（食生活の改善や口腔機能の維持）、「身体活動」（ウォーキングや筋トレなどの運動の推奨）、「社会参加」（人的交流）の健康長寿の3本柱を軸に講習を行った。健康寿命やフレイル（虚弱）について考え、これからの生活改善のヒントを学んだ。

## ウ 第3回

「遺言のススメ ～円滑な相続のために～」

日時：令和2年8月25日（火）

講師：吉田 清勝 氏（司法書士）

終活の重要な要素となる相続と遺言をテーマに相続順位、相続の割合、遺言の方法と作成ポイント、証人の必要性、法定相続情報証明制度等、新たな制度の説明等を行った。新しい制度がなぜ導入されたのか学んだ。

## エ 第4回

「介護保険と老後の暮らし」

講師：久恒 恵美子 氏（福岡県金融広報アドバイザー）

介護保険の仕組み、介護を取りまく背景、認知症早期発見の目安、介護状態になった場合の対応、終末期の対応や高額医療制度等自己負担を軽減する制度について講習を行った。身近で喫緊の問題である介護のことからエンディングノートの活用までを学んだ。

## オ 第5回

「生き生きとした老いに向けて～生前整理について～」

日時：令和2年10月29日（木）

講師：元重 香代 氏（整理収納アドバイザー）

家庭内の日用生活品の管理や整理、亡くなった後に家族や親族が把握できるような通帳等の整理など、いつ終末期を迎えてもいように生前整理について講習を行った。（生前整理の必要性について具体的に学んだ。）

## カ 第6回

「今更聞けないお葬式の常識」

日時：令和2年11月17日（火）

講師：尾家 雅之 氏（総合葬祭あすか）

葬式について宗派による作法の違い、葬儀の流れ、葬儀に係る経費、遺影の選び方等の葬儀に関する豆知識について講習を行った。最近のお葬式の状況などを知りながら、これからいきいきと生きていくための終活の大切さを学んだ。



【令和2年度 終活講座の様子】

## 3 評価・成果

「終活」の基本となる「エンディングノート」を基に全6回のプログラムを通して、これからの人生をいきいきと生きていくことの大切さを学ぶことができたと思う。

また、受講後のアンケートには「エンディングノートの記入方法を教えていただけてよかった。ノートを活用したい」、「終活について本格的に取り組みたい」という声が多数寄せられ、「終活」に対する理解がより深まったことが分かった。

さらに、単に相続や遺言にとどまらず、運動や社会参加、生活用品の整理等、実生活に則した内容を取り入れることで生きがい作りにもつながった。

## 4 今後の課題

○最近でこそ、「終活」という言葉が定着してきたが、まだ内容等は認知されていない状況である。一言で「終活」といっても、事柄も多く、内容も多岐に渡るため、今後も講座として続けていくうえでは、多様なプログラム作成をしていくことが大切になってくると考える。  
○「終活」というネーミングからなのか参加者は高齢者の方がほとんどであった。しかし、「終活」は高齢者の方たちだけの問題や取組ではなく、その高齢者の方たちの子ども世代、40代から50代の方たちこそ知って、気づいて、考えなければならないことである。そのためには、対象年代に応じた内容の精選し、リーフレット等による啓発活動等を継続的に行っていく必要があると考える。

## 第4分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# 誰一人取り残さないまちづくり

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

人権の尊重 SDGs に向けた取組 など

### ◎事例発表者

いま出来ることを一歩ずつ

福岡県篠栗町北勢門校区地域づくり協議会 会長

野見山 宏孝

翔べ！！ 未来の公民館  
～SDGs に向けた持続可能な自治公民館活動～

福岡県筑紫野市みかさ台公民館 館長

久木田 正比古

### ◎助言者

NPO法人ドネルモ 事務局長

宮田 智史

### ◎司会者

福岡県教育庁福岡教育事務所 主任社会教育主事

河野 和道





## いま出来ることを一歩ずつ

福岡県篠栗町北勢門校区地域づくり協議会  
会長 野見山 宏孝

### 1 はじめに

篠栗町は、福岡市内から東に12kmのところに位置し、人口約3万1千人、面積38.93km<sup>2</sup>。鉾立山・八木山・若杉山の峰々に囲まれた自然に恵まれた町である。その自然を生かし、平成22年3月に森林セラピー基地の認定を受けた。ストレスの多い現代社会の中で、多くの方が森林のもつリラックス効果に「こころとからだ」の癒しを実感されている。最近では、若杉山のキャンプ場整備に伴い、週末になると多くのキャンパーも訪れるようになった。

町内には、篠栗小学校とその分校として萩尾分校、勢門小学校、北勢門小学校の小学校3校と、篠栗中学校と篠栗北中学校の中学校2校がある。そのうち北勢門小学校、篠栗北中学校においては、平成28年度文科省小中一貫教育事業を経て、令和元年度から篠栗北学園として小中一貫教育が本格的に始動した。その篠栗北学園では、令和2年度から運営協議会が組織され、小中学校間の繋がりと北勢門校区地域づくり協議会による地域づくりを生かした教育の充実を図っている。

### 2 活動内容

北勢門校区地域づくり協議会は、平成19年に文部科学省指定「学びあい支えあい地域活性化推進事業」を起爆剤にして発足した。本協議会は、北勢門校区学校支援ボランティア「みずすましの会」を母体に他の学校支援団体との相互協力体制を図りながら活動している。組織は、校区の安全や見守りを行う「みまもり隊部会」、子どもと共に学びあう「学びあい部会」、校区の情報提供を行う「広報部会」の大きく3つの部会で構成されている。「それぞれが出来ることを無理なく、出来るときに支援する」を合言葉にして活動を始めた。

#### (1) みまもり隊部会

- ・防犯パトロール
- ・声かけ運動
- ・あいさつ運動

毎朝、子どもたちと元気にあいさつを交わしながら危険な交差点などに立ち安全を見守っている。



また、町で定めた「毎月15日はあいさつの日」に基づくあいさつ運動にも取り組んでいる。

あいさつや声かけを通してのつながりを大切にしている。

#### (2) 学びあい部会

##### ア 環境美化

毎月第2土曜日に、多々良川清掃を行っており、11月と2月の清掃には、中学生も参加している。



【中学生が参加した多々良川清掃の様子】

##### イ 除草作業

中学校体育祭(5月)、小学校運動会(9月)の開催に合わせた除草作業を行っている。また、芝生化された小学校の運動場の補植作業や水撒きなどの芝生管理も行っている。

##### ウ 寺子屋

毎月第1、3土曜日に、3～4名の地域ボランティアが講師を務め、20名程度の生徒たちの学習支援を行っている。

##### エ 観月会

毎年10月頃に開催。子どもたちがイラストやメッセージを書いた紙袋に、砂とロウソクを入れ作った灯籠を小学校運動場に並べて行っている。オープニングでは、小学校の運動会の映像を上映し、地域の方によるオカリナや太鼓の演奏、絵本の読み聞かせなどで秋の夜長を楽しんでいる。

## オ クリスマスコンサート

平成 20 年度からクリエイト篠栗の大ホールで開催している。中学校の生徒による司会進行、吹奏楽部による演奏で、コンサートを盛り上げてくれる。また、幼稚園児のお遊戯や小学生の合唱、日本舞踊クラブやダンスクラブによる発表は、ステージを和ませてくれる。ほかにも、児童館の児童や地元のコーラスサークルによる合唱、地域の方によるフルートやピアノの演奏など、園児から地域の大人まで出演するコンサートは、多くの来場者で大変賑わっている。

## カ 落語教室

趣味が落語という地域の方によるもので、小学生を対象とした落語教室を開催。サプライズゲストとして真打ちの落語家の参加もあり、子どもたちがとても楽しみしている行事のひとつである。



【落語教室の様子】

## キ 門松づくり

年末におやじの会やPTAと共同で門松を作成し、校区内の幼稚園、児童館、小中学校に設置している。

環境のことを学んだり様々な文化にふれたりすることなど、体験活動を伴って学びを深めることができるような機会をつくっている。たくさんの人々の交流の場にもなっている。

## (3) 広報部会

校区の情報提供を行うため各事業の案内やチラシの作成、そして各事業の取材を行っている。その取材をもとに入念な打ち合わせを公民館で行い、北勢門だより「きたせとの風」を年2回発行し、コミュニティの拡大にも繋げている。



## 3 評価・成果

## (1) 子どもにとって

子どもの満足感、達成感、自己存在感、感謝などの「心の育み」が生まれている。また、子ども期の貴重な体験をこれからの生き方に活かしていくことが期待される。そして「地域大好きっ子」が増えている。

## (2) 大人にとって

世代間の相互交流は、喜びや充実感を生み、生きがいづくりに繋がっている。保護者においては、地域の一員としての意識が向上している。

## (3) 学校にとって

学校と地域の信頼関係や協力関係が太く強くなっており、地域の力強い支援の中で、開かれた学校づくりが進展し、教育活動が充実してきている。

## (4) 校区づくりにとって

「住み続けたいまちづくり」への夢や願いをもっている人たちが顕在化され、学校支援団体や他地域の方との相互協力も充実し、横断的なネットワーク（輪）ができた。

## (5) 全体として

- あいさつがよかった
- 素直な子どもが増えた
- 治安の安定により、不審者が減少した
- 世代を超えた交流の輪ができた
- 大人と子どもとのコミュニケーションが図られ、繋がりのある身近な関係が生まれた

## 4 今後の課題

### (1) コロナ禍における地域活動

#### ア あいさつ運動

一定の距離をとりつつ、子どもたちとのマスク越しのコミュニケーションを楽しんでいく。

#### イ 多々良川清掃

感染予防に配慮し、地元の財産である河川の環境を保つ活動を行っていく必要がある。

### (2) 最後に

現在、コロナ禍において多くの地域活動を自粛し、限られた地域活動しか出来ていない。しかしながら、コロナ後の地域社会を見据えた時、いま出来る活動こそが重要な役割となり得るのではないだろうか。そして、無理なくひとつずつ取り組んでいくことが、持続可能な地域社会を目指す未来への一歩にも繋がるのではないだろうか。これからも、足踏みするなかで小さな一歩を踏み出し、明るい未来に繋がる活路を力強く見出していきたい。

# 翔べ！！ 未来の公民館

～SDGsに向けた持続可能な自治公民館活動～

福岡県筑紫野市みかさ台公民館

館長 久木田 正比古

## 1 はじめに

### (1) 筑紫野市の概要

福岡県の中央部に位置し、東西が山間部で、中央部に平地が広がっている。蝶が羽を広げたような形ともいわれる。その平地に交通が集中して、昔から交通の要衝として栄えてきた。日田街道や長崎街道という官道もあった。現在もその平地に集中するように、JR、西鉄の鉄道路線、国道3号の主要幹線をはじめ、九州自動車道筑紫野インターチェンジなどが設置されておりとても利便性の高いまちである。

### (2) みかさ台地区の概要

昭和54年から初期分譲が開始され、現在では、世帯数414、人口951人の地域である。令和2年10月1日現在の人口構成を見ると筑紫野市全体の高齢化率が25.6%なのに対し、みかさ台は52.8%と高く、市内でも第2位になっている。

## 2 SDGs対応の公民館活動

### (1) 生涯学習の機会促進 ⇒ SDGs 目標④

#### ア 公民館サークル活動

コロナ禍の中でも、誰一人取り残さずすべての住民に生涯学習の機会を提供するための持続可能な公民館活動を推進するための工夫が必要である。みかさ台公民館では、いくつかのサークル活動を行っている。公民館のサークル数は徐々に増加し、現在は36サークルになった。また、年間来館利用者数のピークは平成29年で、約11,500名である。

#### イ コロナ禍における取組み

新型コロナウイルス感染拡大防止のための最大限の注意を払った公民館活動の推進

①コロナ禍注意喚起のチラシ掲示(公民館入口)

②入館時の対策

- ・手指消毒及び検温の実施
- ・利用者名簿への住所、電話番号等、連絡する際に必要な情報の記入

③研修室利用時の対策

- ・換気扇、扇風機等による換気の徹底

- ・収容人員の50%程度への参加者数の減員
- ・マスク着用
- ・間隔をとり、密を避けたスタンスでの実施



### (2) 住み続けられるまちづくり ⇒ SDGs 目標⑪

安全で安心して住み続けられるまちづくりを実現するため、地域として防災・防犯・福祉活動を推進している。

#### ア 防災・防犯活動

地域の防災・防犯・福祉活動を推進するため、平成21年4月に区会に加入の全員を構成員として「みかさ台自主防災会」を設立した。

##### ①防災活動

- ・年2回の防災訓練
- ・防災マップの作成
- ・防災備品の管理
- ・防災かまどベンチの作成、設置(公民館広場他)
- ・年1回の救命救急講習会(AED)

##### ②防犯活動

- ・毎月の町内パトロール
- ・年末の防犯パトロール
- ・年1回の防犯講習会

#### イ コミュニティと自治公民館の一体化

筑紫野市には7つのコミュニティ地域があり、みかさ台公民館はその中のひとつである御笠地区の中にある。各コミュニティの中に自治公民館があるが、筑紫野市全体に横ぐしを通す形で、筑紫野市自治公民館連絡協議会(略称:自公連)が組織され、公民館活動などの社会教育の振興を通じてコミュニティの推進に貢献し



ている。

自公連は、87 の自治公民館組織で編成され、各地区の代表で構成されている役員会や理事会で情報共有化・協議・答申・承認等を実施し相互に連携しながら各コミュニティ運営協議会（略称：コミ協）の一員として活動を継続している。

現在、みかさ台公民館は「御笠まちづくり協議会自治公民館連絡協議会」に所属し、コミ協と一体化した活動を推進している。公民館とコミ協が一体となった取組み事例の一つとして、毎年 11 月に開催される御笠地区市民文化祭がある。令和元年度は、2,000 名以上の参加があった。まさに、地域コミュニティを巻き込んだ一体的な取組を創造する公民館活動である。

### （3）人権の尊重 ⇒SDGs「誰一人取り残さない」 ア 公民館食堂（「みかさ亭」）

地域の高齢化を憂うより、逆に「健康長寿伸ばし」への助力、団塊難民・高齢者・独居者・閉じこもり男性への食支援とともに交流の場を広げるといったことを基本コンセプトとして、男料理会会員による手作りレストラン「みかさ亭」を立ち上げた。

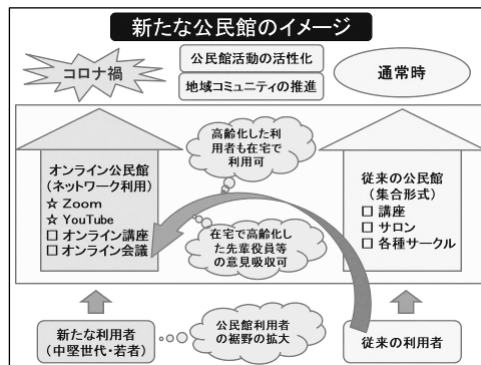
#### イ 福祉活動

地域を4ブロックに分けて「みまもり隊」を組織し、75歳以上の人を対象に、2ヶ月に1回の自宅訪問を行っている。また、市の災害時等要援護者支援制度への登録、全戸への安心カード（緊急を要する時の連絡先）の配布、住民の簡単な困り事のお手伝いをする「ヘルプみかさ台」などを推進している。

### （4）持続可能な公民館活動（オンライン公民館）

新たな公民館のイメージであるが、従来の公民館活動と異なり、コロナ禍の中では、できるだけ人を集めないで、いかに公民館活動を推進するかということが重要になってくる。オンラインでの講座や会議等が実施できるような仕組みを構築していく必要がある。まさに、オンライン公民館であるが、このシステムにより、従来の利用者や高齢者の方も在宅で参加することができるとともに、今まであまり参加できなかった中堅世代や若者の皆さんも、自分の都合の良い時にいつでも参加できるようになる。また、Web（ウェブ）会議ツールの Zoom（ズーム）や動画投稿サイトの YouTube（ユーチューブ）を活用することで、双方向の会話やいつでも、どこでも公民館講座等に参加できるようになる。

まちづくり講座や「おうち de ヨガ」など、在宅で受講することが可能になり、コロナ禍の今こそ、オンライン公民館が実現すれば公民館利用の裾野が拡大すると思う。



### 3 評価・成果

当公民館で推進している活動は、いずれも人権尊重を基本にSDGs 目標④の「生涯学習の機会促進」や目標⑩の「住み続けられるまちづくり」など「誰一人取り残さない持続可能な目標」を具現化する取組に結びついている。

コロナ対策を徹底したサークル活動、地域の防災・防犯・福祉活動の継続、公民館食堂「みかさ亭」の運営や、その他にも親睦を目的にしたワンコイン談笑パーティ、夏祭りなどを通じて住民間の絆は強固なものになってきている。

### 4 今後の課題

みかさ台地区は高齢化率 52.8%で、5年10年後は老人団地と化することは目に見えており、早急の対策が必要である。高齢化により行事への参加、団地での役職（組長・役員等）が担当できない事態が予想される。できるだけ組織、サークルを簡素化し、ネット利用を推進していきたい。広報でも、ネット配信（LINE、Zoom、ホームページ）等を利用するとともに、スマホ・パソコンの利用・活用の推進のため、スマホ・パソコン教室の開催を近隣の女子大の課外講座を利用して始めたいと思っている。

また、日頃公民館を利用されていない方への広報活動として、公民館活動・サークル活動・自主防災会・地域交流の様子などをホームページに掲載するとともに、令和2年度から、みかさ台のホームページの中に“つながろうみかさ台”というタイトルで、YouTube チャンネルを新設している。

今後、コロナ禍の中でも持続可能な公民館活動を実践し、新たな未来の公民館に飛躍することが課題であると考えている。そして、公民館とコミュニティが一体となった地域コミュニティの推進強化を図っていきたい。



## 第5分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# 自治公民館活動

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

住民参画 住民自治 など

#### ◎事例発表者

人々を繋ぐ、祖納公民館の活動  
～ユイを育み、歴史と技術を継承する、新盛家茅葺き替えムラングドゥ(地域協働作業)～

沖縄県八重山郡竹富町西表島祖納公民館 総務企画部長

荒木 和友

安全・安心の、絆と人情あふれる地域づくりを

福岡県田川郡福智町第26区生力ニュータウン公民館 館長

阿世賀 寛行

#### ◎助言者

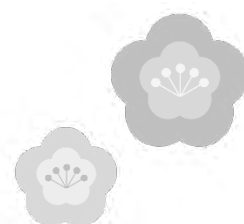
沖縄県社会教育委員

西村 友三郎

#### ◎司会者

福岡県教育庁筑豊教育事務所 主任社会教育主事

坂本 真一



## 人々を繋ぐ、祖納公民館の活動

～ユイを育み、歴史と技術を継承する、新盛家茅葺き替えムラングドゥ(地域協働作業)～

沖縄県八重山郡竹富町西表島祖納公民館

総務企画部長 荒木 和友

### 1 はじめに(祖納集落のくらしと文化)

#### (1) 稲作儀礼

祖納は西表島の北西部に位置し、島で最も歴史の古い集落である。古くから稲作を行い、1月～3月に田植えを、5月～7月に稲刈りを行い、その後も一度米を作る二期作である。節目ごとには儀礼があり、播種後良苗の生育を願う種取祝(タナドゥリ)、田植え後苗の立派な成長を願う世願い(ユニシガイ)、初穂刈りのシコマ祝、収穫の感謝と喜びの豊年祭(プリヨイ、アサヨイ)が行われる。日取りは十干で決まり、シコマ祝までは大きく物音を立てない禁忌がある。シコマ祝から三線が解禁になり豊年祭が終わるまでの約40日間だけ「仲良田節」が唄われる。豊年祭で解禁されるドラや太鼓に合わせ踊るガーリー(幸を招く舞)は喜びもひとしおである。

#### (2) 節祭(シチ)

14世紀初めごろ、様々な能力を持つ集団と共に来島した大竹祖納堂儀佐が祖納を開闢したとされ、一説にはそれを行事化したものが節祭だと言われている。節祭は十五夜を過ぎた己亥(つちのとい)の日から3日間にわたって行われる。<sup>\*1</sup>ニライカナイから満載してきた幸せを一早く祖納村に渡すため、2艘の船が競い合う爬竜船競争をはじめ、数々の独特の芸能が奉納される。節祭は祖納公民館最大の神行事である。

<sup>\*1</sup>ニライカナイ…遠い彼方にある理想郷で来訪  
神信仰の一つ



【節祭(シチ)の様子】

### 2 活動内容(新盛家住宅茅葺き屋根葺き替え)

#### (1) 新盛家住宅

新盛家住宅は、沖縄県に現存する最古の木造茅葺

き住宅である。柱や桁にはキャンギ(イヌマキ)やイゾキ(モッコク)など島でとれる最高の木材が豊富に使われ、高度な木組み技術の貫木屋形式で建築されている。その他にもプシキ(マングローブ植物)、ダイム竹(寒山竹)、ダシカ(シマミサオノキ)、クーチ(トウヅルモドキ)など島の材料が各部に使われており、1994年(平成6年)に沖縄県指定の有形文化財(建造物)に指定された。我々にとって大変貴重な財産である。

#### (2) 葺き替え技術継承の課題

令和元年に新盛家住宅は8年ぶりの茅葺き替えを迎えた。まずは数千束の茅をはじめ材料集めから始まる。茅を抑える細い木(キブク)には弾力と強さが必要で、200本以上調達するには樹を知り場所を知らなければ確保できない。その他の材料も然りだ。また葺き替えには様々な技術を要する。だが、棟梁含め前回の経験者がほとんどいない。8年後の次回も先輩は動けるのか、若い世代はやれるのか、知識と技術の継承は急務であることが浮かび上がってきた。

#### (3) 社会教育学級「シブレ(新盛家の屋号)」学級

そんな時に竹富町教育委員会から社会教育学級開講を打診され、葺き替え作業は忙しかったものの新盛家保存継承の為に必要と考え「シブレ学級」を開講することにした。11名の先輩を講師に招き、座学と実践の両輪で茅葺き替えの知識や技術を学んだ。昔の茅葺き、建物の構造、各部の名称、材料、古謡、新盛家住宅の今後について座学で学び、山に入って実際に材料を調達し、葺き替え前夜には現場で投光器の灯の下、作業の実践講習を受けた。

#### (4) 茅葺き替え本番

茅下ろしや、傷んだ垂木や竹の交換など数日間の準備作業を終えその日を迎えた。講習は受けたが実践は簡単ではない。右往左往する者も多く、茅葺き作業は棟梁の指示でやり直しになる箇所もあった。大変だったが婦人の料理でくんち(力)がつき3日間天気にも恵まれ令和元年10月14日、作業は何と

か完成を迎えた。

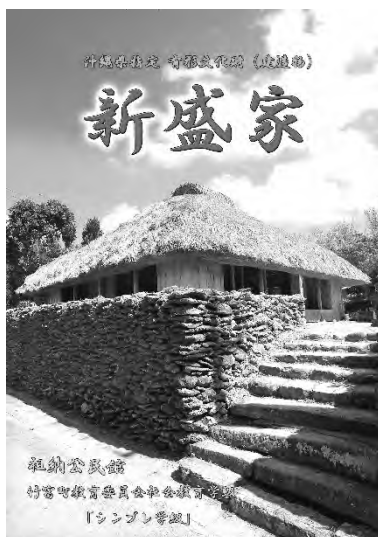
### (5) 家たかび

「家たかび」は、新築落成した家の平安と繁栄を祈願する儀式のなかで唄われる古謡である。新盛家の茅葺き替え完成儀式も10月22日に執り行った。儀式では「家たかび」を2つ唄う。一つ目は落成の喜びと家の安全祈願で、もう一つは茅葺き家の建築工程を唄っている。茅葺き家は新盛家しか現存しないため儀式を行う意義は非常に大きい。最後は新築落成祝と豊年祭(プリヨイ)でしか唄われない「アパレ」を唄う。アパレは神司

(御嶽で祭祀を司る女性)が不在では唄われないので、今回は3名の神司を迎え、盛大な「家たかび」を執り行うことが出来た。葺き替え完成の感謝と喜びと安堵の気持ちでガーリーを踊り、皆感無量であった。

## 3 評価・成果(「新盛家」発刊)

茅葺きの知識と技術の継承が急務である。シンブレ学級と葺き替え作業で学んだことを記録保存し今後活かすことが必要だと考え、講義の録音、資料保存、色々な場面の写真や映像を撮り溜めた。編集作業は簡単ではなかったが、新盛家住宅の保存継承への強い思いで「新盛家」発刊にこぎつけた。長く見聞きして継承された技術を記録に残して伝えることに躊躇もあつ



【記念誌『新盛家』】

たが、建築工程が唄われた「家たかび」を思い、先人も記録を残したのかもしれないと勇気をもらい作業を進めた。発刊まで1年以上を要したが今後繋がる成果をあげることができた。

## 4 今後の課題(島の暮らしと公民館活動持続のために)

### (1) ジンブン(知恵)とユイ(つながり)

先人たちはカマイ(猪)を追って島の山を歩き、子々孫々まで恵みを頂けるよう山を残してきた。今は先人のように暮らしジンブンを身に着けるのは難しい。そのジンブンを身につけるすべが新盛家住宅には備わっている。家造りは知恵の宝庫である。またかつて田植えなどはユイマール(共同作業)であったが、現在

は機械化で個別になりユイの心が薄れている。茅葺きは「ムラングドゥ」であり、新盛家住宅はユイを継承する場ともなった。新盛家住宅を保存継承することは、私たちの\*2 シマの暮らしと公民館活動を持続可能にするのである。

\*2 シマの暮らし…地域共同体

### (2) \*3 島人じゃない“島人”

何をやるにも人が必要だが祖納も人口が減少している。平成13年には90世帯185名が平成23年には75世帯158名に、令和3年では73世帯139名になった。特に若者が少ない。しかしこれまで行事が滞ったことは一度もない。何故か。祖納は歴史・伝統のある地域で地域に入りづらそうに見えるようだが、外から入ってくる若者を拒まず、しかも育てる懐の深さがある。作業などに参加し地域で認知されると、伝統行事の重要な役割も信頼して任せる。任された側は緊張する一方で、意気にも感じより積極的に稽古や作業に取り組むようになる。難儀もいとわなくなる。そんな彼らの行動はシマの人たちに新鮮な風を吹き込み、地域を活性化させる。数年で島を離れる人も多いが、彼らを受け入れ続けることで結果的に伝統や技術も繋がっている。

\*3 島人…島で生まれ育った人

### (3) 今後の課題

#### ア 新盛家住宅の保存継承

新盛家を失えばジンブンやユイも消えていくのでその保存継承は重要な課題である。家は人が住まないと劣化するといわれる。文化財なのでハードルは高くなるがトイレなどを整備し良い活用方法を探らなければならない。湿気により茅の腐食は速い。今回、腐食は垂木や柱にも及んでいたのも、葺き替え技術も文化財の一部と考え葺き替え周期を5～6年に前倒しすることも必要だ。県事業となるため予算確保が前提だが何とかお願いしたい。歴史を語り技術を伝え人々を繋ぐ新盛家がいつまでもあり続けることを望んでいる。

#### イ 定住人口を増やすために

ひとりで二役、三役と掛け持ちし何とかこなしている現状だが、定住者の減少は将来的に不安だ。特に若者の減少が著しい。20代は1人もいない。30代も数名である。若い世代の定住のための環境整備が課題である。祖納は家主が島を出た空地・空家が多く、居住可能な国有地の割合も多い。稲作農家の耕作水田も足りていない。これらの土地活用や休耕田の改良による利活用など、いずれも難しい問題で行政の力を借りないと出来ないが、公民館として根気強く要請していく。UターンでもIターンでも若者が希望をもって住める祖納を目指していきたい。



# 安全・安心の、絆と人情あふれる地域づくりを

田川郡福智町第26区生力ニュータウン公民館

館長 阿世賀 寛行

## 1 はじめに

生力ニュータウンは、平成元年頃より宅地分譲が始まり、現在約200世帯の新興住宅地である。古くからの“地のつながり”が乏しく旧赤池町の体育行事や夏の盆行事、秋祭りなどに積極的に参加し地域のつながりを強めようと尽力していた。

平成18年の3町合併を機に旧町時代の行事が減少。そのため地区独自で夏行事や年末行事を企画していたが、これは一時的なイベントであり役員への負担が大きい割には日常的なつながりを創り出すことには成功していなかったと思う。

## 2 活動の内容

### (1) 地域通信「生力の絆」の発行

地域住民へのお知らせや共通の話題提供のため地域通信の発行を開始。月2～4回の不定期発行であるが、「町や地域の行事、様子がよくわかり、貴重な情報源になっている」と発行を楽しみにしている住民に支えられ令和3年5月に8年間で293号の発行となっている。

### (2) 学童登校見守り活動から生力寺子屋へ

#### ア 学童登校見守り活動

中学校在職中には地区住民とのつながりが少なかったため、まず地域の子どもたちやその保護者とのつながりをつくろうと登校見守り活動を開始。1人で始めた活動が現在は3カ所で6人の見守り活動に発展している。



【ふれあい生力駅前の登校見守り活動】

### イ 生力寺子屋＝学習支援と世代間交流の場

夏休みの午前中1時間の自学と1時間の自由交流時間で構成。地域の人材を活用し特別企画を設け、世代間交流の場に活用している。顔なじみのおいちゃん、おばちゃんを増やすことで、子どもたちと高齢者の相互見守りの推進を図る。

《特別企画》 ・陶芸教室 ・茶道体験

・詩吟体験 ・グラウンドゴルフ体験

・子ども卓球大会

### ウ 夏休み早朝ラジオ体操

夏休み小中学生を対象に午前6時30分からラジオ体操を続けている。高齢者や地域の大人も参加し、多い日は50人を超える参加がある。

### (3) 集い、語らい、つながる「生力三大行事」

日常的な公民館活動を繰り返しながら節目ごとに地域住民が“顔を合わせ、声を合わせ、力を合わせる場”を企画する。

#### ア 春行事「お花見カフェ」

#### イ 夏行事「生力ふれあい納涼の夕べ」

第1部「落語を楽しむ会」「ギターコンサート」

「沖縄三線とピアノコラボコンサート」

第2部 飲食を伴う大交流会

#### ウ 年末行事「もちつき交流会」

### (4) 多様な日常活動で集いとつながりづくりを

三大行事のほかに日常的に様々な活動を企画し住民の多様な要望に応えることで、より多くの住民が集う場づくりを工夫している。

#### ア 「生力ふれあい交流ひろば」(月1回)

#### イ 「ふれあいバスハイク」(年1回)

#### ウ 「シニアいきいき健康体操」(月1回)

※ふれあい交流の体操が困難な後期高齢の方を対象にしたいすに座ったままの健康体操

#### エ 「生力マッサージ院」(月2回)

#### オ 「資源リサイクル活動」

(2ヶ月に1回)

#### カ 各種学習会

(防犯・防災・介護 年1～2回)





【「生力ふれあい交流ひろば」の健康体操】

### （５）生力見守り隊の活動

福岡県の「安全・安心まちづくり団体事業補助」を受け、2017年6月「生力見守り隊」を発足。

防犯に限らず、防災の観点からも危険箇所を点検しながら、毎月夜間・昼間を交互に地域安全パトロールを繰り返している。

ア 学童登校見守り活動（平日毎朝）

イ 地域安全パトロール（月1回）

ウ 高齢者ふれ愛訪問（月1回）

公民館長、民生児童委員、在宅介護支援センター、地域包括支援センターで、高齢者宅を訪問し、見守りと相談を受けている。

## 3 事業の成果と評価

寺子屋の中で「私、生力に生まれてきて良かった！」と語ってくれた女の子がいた。

中学生で夏休みの課題作文「社会を明るくする活動について」で生力ニュータウンの寺子屋の活動や地域活動について書いてくれた子がいた。

寺子屋で子どもたちに陶芸教室や詩吟体験を指導していただいた方が、その後学童登校見守り活動に参加をし、毎朝子どもたちとのつながりを強めている。

「これまで顔も名前も知らなかった人と親しく話ができるようになった」という地域住民の声がいくつも届けられている。

「切れた電球を交換してほしい」「水洗トイレの水が止まらなくなった」「夫が入浴中発作を起こして大変！助けて！」など、隣人に向けていろいろなSOSの声を発する人が増えている。

地域の中で子どもたち同士、高齢者同士、子どもたちと高齢者の間で顔見知りが増え、それまでに見られなかった“助け、助けられ”のつながりが生ま

れている。

またいろいろな実践を学ぶため他地区との交流を進めてきたため、他地区公民館とのつながりを強めることができている。

## 4 今後の地域づくりの課題

（１）公民館行事への参加は、それでもまだまだ5割程度の世帯にとどまっており、偏りがある。

不参加の世帯から行政区や隣組を離れる世帯が出てきている。住民同士で意図的に集いの場に誘い合って参加する取り組みを強める必要を感じている。

（２）少子化で子どもたちが激減し、子ども会や育成会の存続が危ぶまれている。高齢化で約500人の住民中現在60歳以上が200人（40%）。10年後にはさらに90人の増加が見込まれている。

（３）成人して生家を離れた世代が家に戻らず、高齢者の独居や高齢夫婦のみの世帯が増加している。

また、入院や施設入所の高齢者が相次ぎ、今後空き家問題も深刻化すると思われる。

（４）これまで60歳退職で地域活動への参加を誘うことができていたが、定年退職の年齢が伸びることでそうした世代の地域活動への参加が困難になり、お世話役や役員の後継者づくり、世代交代が難しくなっている。

（５）お世話役や役員のほとんどが男性という現状。地域活動や防災の取組において女性の要望や育児の問題を考えるためにも男女共同参画の視点で役員の構成と地域づくり、防災の取り組みを進める必要がある。

（６）新型コロナの感染拡大による三度の非常事態宣言でいくつかの活動（防犯パトロール、資源リサイクル活動、花いっぱい運動など屋外での活動）を除いて地域活動や行事が1年以上自粛されている。

そうした中でこれまでの活動に参加をして元気だった高齢者の中に、意欲や体力面で老けや衰えを感じる人が増えている。コロナ禍が収束をして休止していた活動を再開したとき、果たしてどのくらいの参加者が再び活動に参加できるのかという危惧を抱いている。諸活動の再建という力仕事に向けた手立てと準備を始めなければならないと感じている。

## 第6分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# 青少年の成長と自立を促す活動

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

青少年の見守り 体験活動 青少年の社会参画 など

### ◎事例発表者

ふるさとを愛し、夢や希望をもち続ける あくねっ子の育成  
～地域や関係団体との連携を図りながら～

鹿児島県阿久根市教育委員会生涯学習課 主幹兼社会教育係長

南 健

持続可能な地域づくりに向けた青少年の成長と自立を促す活動  
～子どもの思いや願いを大切に、地域の人的・物的資源を生かした活動を通して～

福岡県久留米市善導寺コミュニティ振興会  
「チャレンジ子ども土曜塾」運営委員会 委員長

田中 美佐子

### ◎助言者

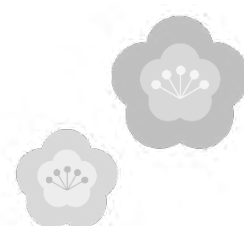
鹿児島県教育庁社会教育課 主任社会教育主事兼生涯学習係長

尾ノ上 義直

### ◎司会者

福岡県教育庁北筑後教育事務所 社会教育主事

西田 俊輔



# ふるさとを愛し、夢や希望をもち続ける あくねっ子の育成

～地域や関係団体との連携を図りながら～

鹿児島県阿久根市中央公民館  
(阿久根市教育委員会生涯学習課)  
主幹兼社会教育係長 南 健

## 1 はじめに

### (1) 地域の概要

阿久根市は、鹿児島県北西部に位置し、北部には激流が渦巻く日本三大急潮の黒之瀬戸を有し、古くから海・陸交通の要衝として海運業・商業などが栄えたまちである。

東シナ海に面した約 40 kmにも及ぶ美しい海岸線や、沖合およそ 2 kmに浮かぶ阿久根大島は、海水浴や釣りのメッカとして知られており、毎年多くの観光客が訪れる。

本市は、世帯数が 9,999 戸、人口が 19,575 人(令和 3 年 4 月末現在)である。年々人口は減少傾向にあり、児童生徒数の減少に伴って、子ども会の数も、ここ 10 年で半数にまで減少している。子ども会の減少によって、これまで青少年の育成に大きな役割を果たしてきた地域での体験活動や異年齢交流活動は、困難な状況になりつつある。

### (2) 公民館の概要

本市の条例公民館は、中央公民館と 2 つの地区公民館、そして 2 つの分館がある。阿久根市中央公民館は、市民交流センター(愛称: 風テラスあくね)としての性格も有し、市民の文化芸術の振興を図るため、映画上映やコンサート、落語など、多様な自主文化事業を行っている。また、平成 30 年に建設された建物で、そのモダンなフォルムは、道行く人々の目を引き、阿久根のシンボリックな施設として、市民の交流の場となっている。

職員は、館長を含め、教育委員会生涯学習課職員が兼務している。

## 2 活動内容

阿久根市中央公民館は、青少年を対象とした社会教育事業を展開する拠点施設として、重要な役割を果たしており、青少年育成における課題解決に向け、地域や関係団体との連携を図りながら、様々な事業を行っている。

### (1) ジュニア・リーダーの育成

本市のジュニア・リーダークラブ BAMB I は、中央公民館に事務局を置き、市子ども会育成連絡協議会との連携のもと、平成 23 年に発足させた組織である。現在は、中央公民館を拠点に主体的な活動に努めている。

他のジュニア・リーダークラブとの交流や各種研修会への参加のほか、市行事へも積極的にボランティアスタッフとして参加している。

今年も 3 名の生徒がクラブを巣立ったが、これまでの活動を振り返って、「活動を通して自然とコミュニケーション力も身に付き、自信を持てるようになった。活動は大変な面もあるが、その分、何かをやり遂げたときの達成感は大きなものがある。」と、感想を述べていた。

現在、市子連と阿久根ジュニア・リーダークラブ BAMB I は、校区を越えた阿久根市全体の子どもたちに楽しい子ども会活動を伝えようという取組を始めている。

今後も、子ども会や地域を盛り上げるリーダーとして活動できるクラブをめざす。



【BAMB I によるレクリエーション活動】

### (2) 市子ども会育成連絡協議会との連携

本市には、現在、9 小学校区ある中の 4 校区にしか子ども会がない。10 年弱で 40 の子ども会が休止し、地域のつながりの希薄化が進んでいる。児童生徒の減少は、地域の子どもの会活動にも大きな影響を与え、十分な活動ができない子ども会も多い。そのような中、市子連や単位子ども会に関係なく、体験活動を通して子ども会活動に興味を

持ってもらうとともに、協力するジュニア・リーダークラブBAMB Iの活動を知ってもらう機会をつくることを目的として、市子ども会育成連絡協議会と連携して「市子連フェスティバル」を開催した。中央公民館と地区公民館を会場に、創作活動を中心とした多彩な体験ブースを設け、多くの子どもたちや親子連れの参加があり、所期の目的を達成することができた。

今年度は、さらにこれまで行ってきた市子連インリーダー研修会の見直しを進め、子ども会に加入していない子どもたちへも広く参加を呼びかけ、野外活動や体験活動を通じて、リーダー性や主体性を育む取組を計画している。

### （３）郷土の自然のすばらしさや科学の楽しさを味わう体験活動の実施

昨今、青少年の健全育成を図る上で、「非認知能力」と呼ばれる力の育成が重要であると言われている。また、そのような力の育成には、体験活動の果たす役割は極めて大きい。

本市においては、市子ども会育成連絡協議会との共催で、郷土の自然を生かした体験活動事業を実施している。家庭や学校では得がたい体験活動を子どもたちに提供することで、自主性や協調性、耐性やコミュニケーション能力等を育み、達成感や郷土の自然の素晴らしさを味わわせることで、心豊かなあくねっ子の育成を図っている。



【あくねキッズスクール（カヌー・ボート体験）】

#### ア あくねキッズスクール

【対象】小学４年生～中学３年生

【内容】カヌー体験、野外炊さん、宿泊体験  
海浜活動、交流活動、創作活動 等

#### イ 星空観望会

【対象】市内に居住する幼児から一般

【内容】星座の話、星の観察（天体望遠鏡）

#### ウ 科学体験教室

【対象】市内に居住する小・中学生と保護者

【内容】サイエンスショー、科学体験教室

### （４）地域学校協働活動の拠点として

地域学校協働活動の一つとして、学校応援団（学校支援活動）に取り組んでいる。中央公民館に推進本部を置き、推進員が学校からの依頼を受け、各社会教育関係団体や生涯学習講座、高齢者学級など幅広い人脈をもとに、学校支援活動（ボランティア）の依頼をし、学校とボランティアの連絡調整を行う。

この取組を通して、学校と地域との連携をより密なものにし、「地域全体で子どもを守り育てる環境づくり」をより一層進めようとするものである。

## ３ 成果と課題

### （１）成果

○子ども会の活性化という点で、成果は今後に期待しているところであるが、市子連役員をOBが継続して務めていただいているため、連携も取りやすく、将来を見据えた継続した事業運営ができています。

○体験事業には、毎年、定員を超える申込みがあり、子どもたちの関心の高さがうかがえる。体験だけに終わらせることなく、活動の振り返りをさせることで、体験を内面化させ、経験や学びへとつなげることができるように心がけている。事業実施後のアンケートからは、主体性や協調性の向上がうかがえる。

### （２）今後の課題

○これまで、異年齢活動や体験活動等において、各単位子ども会が果たしてきた役割は大きい。児童生徒の減少は、避けて通れない課題であるが、そのような課題にどのように対応するのかが今問われている。市子連役員との連携を図りながら、現状に即した課題解決の方法を模索していきたい。

○地域の中で、子ども会の必要性が薄れてきている。「なぜ、今、子ども会が必要なのか」をしっかりと伝えていく必要がある。「地域の子どもは、地域で育てる」という考えをこれからも大切に、学校・家庭・地域と連携・協働しながら、地域で青少年の健全育成を図る環境づくりを推進していきたい。



# 持続可能な地域づくりに向けた青少年の成長と自立を促す活動

～子どもの思いや願いを大切に、地域の人的・物的資源を生かした活動を通して～

福岡県久留米市善導寺コミュニティ振興会

「チャレンジ子ども土曜塾」運営委員会 委員長 田中 美佐子

## 1 はじめに

### (1) 地域の概要

久留米市は福岡県南西部に位置し、福岡県第3位の人口を有する中核市で、善導寺町は市街地東部に位置する。北方を筑紫次郎と呼ばれる筑後川、南方を屏風山の異名をとる耳納連山に挟まれた自然豊かな平野部に位置している。

町名は、鎌倉時代、浄土宗の開祖法然上人の直弟子鎮西上人により開山された大本山「善導寺」に由来し、古くより門前町として栄えてきた。近年では、豊かな大地に根ざした農・畜産業をはじめ、商業、金融、医療機関が集積する。また、町内をJR久大本線と国道210号が東西に並走しており、この利便性から新興住宅が増加している。人口は統計的に横ばい傾向であり、令和3年5月現在7,615人、3,163戸が暮らす校区である。

### (2) チャレンジ子ども土曜塾（以下・土曜塾）の経緯と体制

平成14年度からの学校週5日制導入に伴い、子どもたちの休日の過ごし方が注目を浴びようになった。久留米市でも「地域の様々なひとが参画する中で子どもたちを育てていこう」とモデル校区8校区を設定し、本校区もその一つとして土曜塾の取組が開始された。

平成17年度以降、久留米市は校区公民館組織を再編成した。校区の自主性や主体性をもとに各種住民団体などをネットワーク化した、総合的なコミュニティ組織へと移行を進めたのである。それにより善導寺コミュニティ振興会として再編された当振興会は、住みよいまちづくりのために活躍する各種団体を5つの部会に編成し、連携しながらまちづくり活動を実施している。

土曜塾は公民館事業を主に継承した教育文化部会が担当している。その運営にあたって委員会を組織し、子どもの生活体験・社会体験等についての企画・立案から実施までを、地域の独自性を考慮して進めている。運営委員会のメンバーは、教育文化部

会役員をはじめ、善導寺小学校の校長・教頭、久留米市社会教育主事、同地域活動指導員、そして活動の核となる地域ボランティア指導員（以下、地域指導員）で構成している。

## 2 子どもたちの充実した学びのために

### (1) 年間活動計画の作成

土曜塾では、学習意欲・協調性・創造性等を身につけた健全な子どもの育成を図るとともに、保護者の地域活動への参加意欲を高め、地域の連帯感を強めることを目的とし、学校・地域・諸団体が協働して様々な体験活動をおこなっている。

土曜塾に参加する児童の数は150人前後で、これは小学校全校児童474名の約1/3に相当する。その子どもたちの活動を支援しているのは、地元有志17名で構成された地域指導員である。

6月の開講に向けて、5月上旬に運営委員会を開催している。そこでは、活動内容や活動場所、日程、外部講師との連携、予算等について協議する。その協議はいつも参加する子どもたちの顔や地域の財産を思い浮かべながら進められている。

### (2) 活動の実際

#### ア 子どもたちの思いや願いに寄り添った活動

地域指導員は、毎回の活動終了後、そして年度末に活動の振り返りをおこなっている。参加人数や子どもたちの声・表情等の反応を総括して、次の活動や次年度の計画に生かしている。このように子どもたちの反応をもとに設定した活動は、子どもたちの参加が多い。例えば、昔ながらの手法にこだわって、臼と杵を使っている「餅つき」、大きな歓声上がる「ドッジボール」、どの子も真剣に取り組む「勾玉づくり」等は特に参加者が多くなっている。

参加するきっかけとしては、「友だちの話を聞いて」というものが多い。また、先に参加するきょうだいの姿を見て、参加を楽しみにしている未就学児の姿も見られる。子どもたちの思いや願い

をとらえて活動内容を設定していくことで、子どもたちの参加意欲を高めることができている。

#### イ 地域の人的・物的資源を生かした活動

計画から事前準備・実施に至るまで、ほぼ地域の力でおこなっている。

夏の「ソーメン流し」では、実施の数日前には指導員数名が竹藪に入り、やぶ蚊と格闘しながら太い孟宗竹を切り出していく。鉋やノミを使って、樋に仕上げる作業は大変である。しかし、みずみずしい青竹を伝うソーメンと一緒に、地元の自然素材の恵みを子どもたちに味わって欲しいとの思いも込めて準備を進めている。



【ソーメン流しの様子】

11月の「芋ほり体験」は、地域の方から借りた畑に芋を植えるところから始まる。遊休地のため、畑の土は固い。6月の苗植えに向けて土をほぐす作業を2～3回実施し、畝づくりまでをおこなっておく。農業に携わる指導員がいるために機械を持ち込むことができ、何とか実現できている面はあるが、土とふれあい、収穫作業を体験できることは子どもたちにとって貴重な機会である。

また、「宝探し」は本校区ならではの場所、「善導寺」でおこなっている。境内に隠された宝を子どもたちが地図を手に探し回る。宝探しを楽しんでいるうちに、自分たちの暮らす地域の文化財を身近に感じ、親しむことができると考えている。



【「善導寺」での宝探しの様子】

そして、地域に古くから残る伝統行事「もぐら打ち」にも取り組んでいる。これは、五穀豊穡や家内安全を祈って、藁を巻いた竹の棒等で家先や田畑の地面を叩いてまわる行事である。長い間途絶えていたこの伝統行事を、子どもたちに受け継いで欲しいという思いから復活させたのである。

家庭や学校で経験できなくても、土曜塾でなら経験できるものがある。善導寺校区の「チャレンジ子ども土曜塾」は、子どもたちの願いを反映させたいという思いとともに、豊かな自然環境の中で地域の人・もの・ことに支えられ、子どもたちの充実した学びへとつながっている。

### 3 土曜塾の取組を通して

約20年前に始めた土曜塾は、地域に暮らすおとなと子どもが間近にふれあうことのできる機会である。地域の中で家族や学校以外のたくさんの人と出会い、つながることは、子どもたちの心のよりどころをつくることへとつながっている。

そして、子どもの居場所づくりに取り組むおとなにとっては、子どもたちとのふれあいの中で充実感を味わい、生きがいを感じることでできる機会である。自分のできる時に、できることに取り組むことで、一緒に活動をつくるおとな同士のつながりや地域の活性化にもつながっている。

### 4 今後の課題・展望

当校区も、少子高齢化の影響で、65歳以上の人口に占める割合は2016年時点で3割を超え、現在も市の平均を上回っている。指導員の最年少者は66歳、平均年齢は70歳を超えている。そのため、後継者不足は深刻な問題となっている。

土曜塾への参加を呼び掛ける児童向けチラシを、全ての自治会へ向けて回覧して関心を高めたり、コミュニティセンターの利用者には積極的に声を掛けたりしている。地域指導員が友人・知人を勧誘し、輪を広げる努力も怠らない。こうした積み重ねがあり、現在まで至っている。

地域の特色を生かした活動を子どもたちに提供することは、子どもたちに様々な経験を積ませたいだけではない。地域を愛する心を育てるとともに、土曜塾の光景が原風景として記憶に刻まれることで、今学ぶ子どもたちが、次世代の地域の担い手となってくれば幸いである。

## 第7分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# 防災や防犯のまちづくり

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

防災・防犯の仕組みや組織づくり、意識化の取組 など

#### ◎事例発表者

「炊出し」で感じた人と人とのつながり

大分県日田市天瀬公民館 館長

高倉 誠二

平野地区みんなで取り組む防災  
～大雨災害での犠牲者をゼロに！～

福岡県北九州市立平野市民センター 館長

伊藤 須美子

#### ◎助言者

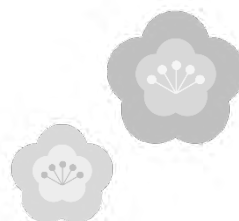
大分県教育庁社会教育課 生涯学習推進班  
課長補佐(総括)兼主任社会教育主事

馬場 尚登

#### ◎司会者

福岡県北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部生涯学習課  
社会教育担当係長

野田 久敏





# 災害発生時における公民館の自主的対応

## 「炊出し」で感じた人と人とのつながり

大分県日田市天瀬公民館

館長 高倉 誠二

### 1 はじめに

#### (1) 天瀬地区の概要

大分県内有数の温泉地である天ヶ瀬温泉のある天瀬地区は日田市の東部の山間部に位置し、人口は4,222人である。

地区の中心部にある天瀬公民館は旧天瀬町を対象地域とし、五馬、東溪の2つの分館がある。

#### (2) 公民館活動の再開

昨年のコロナ禍による緊急事態解除後、公民館は6月から一部ではあるが次のような活動を再開した。

6/1 自主学习教室生代表者会議を開催。

6/10 高齢者教室文集が完成。贈呈式を行う。

6/16 認知症教室開催、分館消防点検。

7/2 市長と公民館運営委員会会長・副会長懇談会

#### (3) 近年に経験したことのない大洪水

令和2年7月7日、天ヶ瀬温泉街は未曾有の洪水に見舞われた。公民館が活動を再開した矢先の被災である。未明より降り続いた集中豪雨で、近年では経験したことのない大惨事となった。

### 2 活動内容

#### (1) 「炊出し」を実施

災害に対し、公民館はどう動けばいいのか。何をすべきか、「被災者が必要としているもの」を考えたとき、それは「炊出し」の実施と思われた。しかし、新型コロナウイルス感染症や食中毒の心配が先に立ち、やはり「炊出し」は無理だろうと感じた。しかし、8日夜に見た、熊本水害についてのテレビ討論で「コロナが心配ではあるが、被災者は炊出しを待っている」という意見が心に残り公民館による「炊出し」を決意した。

9日早朝、電話で町内5つの女性グループに連絡し、その日の10時から緊急会議をしたい旨を申し入れ早速集まってもらった。

コロナ感染者数は減少に転じていることから対策を取りつつ「炊出し」を行うことに決めた。各グループは平日頃から公民館事業には協力的であり一様に共感をいただいた。調理のベテラン揃いで、打ち

合わせも瞬く間に決まっていた。

この時、振興局は被害の対応に追われて手がでない状態であり、各自主防災組織からも給食の確保に関する情報はなかった。このような中で公民館が自主的に窮状に答える形で「炊出し」に踏み切った。



【天ヶ瀬橋を越流する玖珠川】

その一方で「天瀬地区社会福祉協議会」の協力が得られ、食事の配送先への仕分け、直接受け取りに来た方への対応をお願いし、役員や民生委員が毎日当番制であたることになった。

#### (2) 弁当を被災者に 7/10～19 (10日間)

当初は公民館で調理したものを公民館で食してもらおうという考えで、感染症対策を重視した会場設営に神経をとがらせていた。しかし、実際は被災者が公民館まで来ること自体が困難で、結局、公民館から被災者のもとまで、食事を届けることになった。被災地では通常の行動がとれず、車による配送は瓦礫の山や重機を避け、場所によっては徒歩で行った。

食事の配送は自発的に協力してくれた「集落支援員」が全面的に受け持ち、その都度、食事の必要数も把握してくれた。

#### 【炊出し協力女性グループ】順不同

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| ①食生活改善推進協議会     | ②百人会   |
| ③生活研究グループ       | ④ひまわり会 |
| ⑤日田地区商工会女性部天瀬支部 |        |





【炊出し・調理の様子】

### （３）エプロン掛けで

食材等の調達には公民館主事が引き受け、主要道路の国道 210 号線が通行止めとなったため、迂回路を使って日田市内まで毎日車を走らせた。

「炊出し」については、防災無線を利用して各世帯に案内し、あわせてボランティアの募集も行った。それを聞き、エプロン掛けのボランティアが毎日駆けつけてくれた。また、市内外の商店や団体・個人から「炊出し」用の支援物資が届けられ、「炊出し」の参加者も野菜などを持ち寄ってくれた。

### （４）まちづくりグループに引き継ぐ

被災者からの感謝の声が届く一方、温泉街の若い人たちが新しいグループ「天ヶ瀬温泉未来創造プロジェクト」（現・一般社団法人あまみら）を立ち上げ、「炊出し」の引き継ぎを提案してくれた。

（7月20日～8月2日まで実施）

「炊出し」を引き継いだ後は、公民館がいつもの姿に戻ることで地域の安心が図られるものと考え、一日も早く通常の公民館に戻ることに務めた。

被災後は、各方面の視察団、来所者が多数あり、国、県、市の主催で被災者との懇談会も開催され公民館を利用することになりその対応に追われた。

## 3 評価・成果

「被災者のために何かを」という共通の気持ちから出た多くの人の自発的な参加は思いがけないことでもあった。他にできないことがないからと、手縫いの雑巾を届けてくれた人もいた。ある自治会からは食材持参で、全世帯の男女による「炊出し」協力が行われた。

「炊出し」を通じて、いろんな人の励ましや支援を受け、住民同士の社会的な絆が深まったのも感じた。

「被災者に寄り添う」という初期の目的が達成出来たと同時に、人と人とのつながり、ぬくもり、助け合うことの素晴らしさを知った。

「共感」し「連携」して事に当たる。この連携こそ

が「持続可能な地域づくり」に向けたキーワードの一つでもあると実感した。炊出しの参加者（延べ 300 人）は、大きな経験をしたと思う。個別に話を伺うと「自信にもなった」と一様に話す。

## 4 今後の課題

呼びかけに即座に答えてくれた女性グループには今後も何かの際にはお願いすることになるが、10 年、20 年先の地域を考えた時、「次世代への継承」が課題である。

実際に被災した地区は、自主防災組織を確立していても、現実的には動けない場合があった。自主防災組織相互の協力体制や地域団体との日常的な関係づくりの重要性を強く感じた。ここに公民館の果たすべき役割があると思う。

公民館運営委員会も書面議決を求める等、依然として日常的な活動が難しい。しかし、災害復興は市を挙げて懸命な取り組みを行っており、公民館も通常の活動の復活を目指し努力している。目下、取り組んでいるのは主に次の事業である。

- ①大学生と高齢者学級との交流（大学生による高齢者の人生の聞き取りと記録化）。
- ②新規事業として、太鼓サークルの開催、歴史探訪等を企画。
- ③学校支援として、いつま小学校の歴史学習の援助。五馬中学校の平和学習の支援等を行う予定。

## 5 おわりに

「日田市社会福祉協議会」が開設したボランティアセンターには、連日多くの人が駆けつけ、土砂等の撤去に汗を流した。「NPO法人リエラ」（平成 29 年の九州北部豪雨をきっかけに設立）は生活支援相談など、被災者支援の活動全般を行っている。

教育施設では東溪中学校が被災した。校舎、体育館が床下浸水し、グラウンドは冠水して大量のごみや流木が山のように積み重なった。生徒たちは自分たちができる範囲で片付けようと、倉庫や校舎周辺の清掃作業を行った。一方、河川から遠い五馬中学校は、温泉街の状況を知り、生徒会で雑巾を縫い、役立ててほしいとボランティアセンターに届けた。

こうした一連の活動が、地域を盛り上げる力であり、地域への意識向上につながる。今回の公民館の「炊出し」も、参加した全ての人にとって貴重な経験となったことだろう。

# 平野地区みんなで取り組む防災

～大雨災害での犠牲者をゼロに！～

福岡県北九州市立平野市民センター  
館長 伊藤 須美子

## 1 地域の概要

平野地区は、前田第3自治区会と第4自治区会の二つの自治区会から構成され、共に高齢化が進む中、美化・防犯防災活動や世代間交流を積極的に取り組み、安全・安心で暮らせる地域を目指している。高齢化率は42.4%である。

## 2 活動内容

◇事業名 平野地区みんなで取り組む防災

◇事業の目的 近年自然災害が激しさを増し、全国的に地域での「共助」が重視されるなか、さらなる地域防災力の向上を目的とする。また、防災対策を切り口に地域コミュニティの更なる活性化を図っていく。

◇事業実施団体 平野まちづくり協議会、前田第3第4自治区会、前田第3・4区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、平野市民センター

◇実施にいたる経緯 高齢者や一人暮らしの多いこの地域は土砂災害警戒区域として指定された地域も多い。昨今の地球温暖化・線状降水帯による集中豪雨・台風被害等のニュースを目にするたびに、いつどこで起こるか分からない災害に住民の危機意識が高まってきた。

◇実施プログラム

### ①平成30年

北九州市危機管理室支援事業「地区Bousai会議」に応募し、平野地区で「大雨災害での犠牲者をゼロに！」をスローガンに、地域と共に地区防災計画に取り組んだ。全5回の日程で実施。

＜講師＞「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏。

第1回会議＜このまちで生き、この町と向き合う＞

第2回会議＜人間は一人では逃げられない？

住民の皆さんで今の思いや疑問、課題を話し合い大雨災害対策へのはじめの一步を踏み出した。

第3回訓練＜みんなのために情報を伝達する＞

70名が参加。命を守るためにはどうしたらいいのか、実際に情報の伝達、連絡方法などの訓練をした。この年の7月6日に平野川が昭和28年6月28日の大水害以来65年振りに氾濫したことが、

住民の意識を高めた。また、地域住民の出演により作成された「伝達・連絡方法DVD」を放映し、顔なじみのお隣さんが出演することにより住民の関心を湧き起こした。

町内会で立地条件は異なっているため、各町内会に別れて独自のルールを話し合った。最後に水を注ぐだけで食べられる非常食のアルファ化米で作ったカレーライスを食べなど貴重な体験であったとの高評価で訓練を終了した。



### 【花尾小学校体育館での合同訓練】

第4回会議＜いつ・どこに逃げ、身を守るのか＞

第5回会議＜『平野地区防災計画』を作る！＞

住民たちで話し合った結果をまとめた「行動計画書」を作成。各町内会長が保管する。

### ②平成31年（令和元年）

◎フォローアップ講座1

講師：「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏

第1回講座＜前年度講座の振り返り＞

前田第3自治区会防災講演会を実施。

第2回講座＜火災・防災合同訓練＞

地域57名、センター利用者16名、計73名が訓練に参加。

（第1部）八幡東区消防署員指導。センターの調理室から出火したとの想定で避難訓練を行った。消防署員による火災についての講義、水消火器の指導があった。

（第2部）「NPO法人好きっちゃ北九州」入門真生氏講演。地域全体での振り返り講座を実施。

（第3部）食生活改善推進員がふれあい菜園（まちづくり協議会管理・運営）で採れたジャ

ガイモ、玉ねぎを使用し、カレーライスを振る舞う。参加者は食事を終え、順次解散した。

第3回講座…予定していた合同訓練が、コロナ感染予防対策として緊急事態宣言が発出され講座の中止を余儀なくされる。

### ③令和2年

#### ◎フォローアップ講座2

<コーディネーター>「NPO法人好きっちゃ北九州」の入門真生氏・藤谷真利子氏

#### 第1回会議<平野地区防災計画の振り返り>

前回作成した、防災計画の見直しが目的で、今年発生した台風時に困ったことや新たな課題等の意見交換を行った。コロナ感染症対策のため対象人数が絞られ、前田第3・4自治区会の町内会長や役員、社協の役員、民生委員・児童委員の40名が参加。

- ・現状の課題・懸念していることなどの検証
- ・避難すべき人の確認
- ・避難先と移動手段の検討

地形的に北九州は大雨を免れやすいそうだが、運悪く線状降水帯が発生した場合、大規模な災害が起きることも考えられる。参加者からいろいろな意見・アイディアが出され、有意義な会議となった。



【19時からの会議にも関わらず熱心に議論】

第2回会議 <3つのちえん“血縁”“地縁”“知縁”で自助の底上げを目指す>

前田第4自治区会の東川頭町では、町内会長・防災委員・地区担当民生委員の6人からなる防災組織「東川頭お助け隊」を結成した。

東川頭お助け隊を中心に

- ・自治委員との情報共有による、避難困難者の把握と、縁故者への連絡体制の整備
- ・地域独自のハザードマップの補充・活用
- ・連絡網作成

など、避難困難者が確実に避難できるように取り組んでいる。

また、住民の防災意識調査を実施するなど、家庭訪問をしながら情報を把握し確認を行っ

た。

#### 第3回会議<より実践的な防災計画案へ！>

- ・平野市民センターの避難者受け入れ態勢表を作成

受け入れ可能世帯は74世帯（148人）、

2m×2mを基本とし、1世帯2名で算定

- ・使用する部屋の受け入れ順を検討
- ・館内に常備している資材を活用する
- ・ペットもケージに入れ一緒に避難可能とする
- ・足腰の悪い方への配慮

### ④令和3年

第1回講座「感染症対策を踏まえた避難所運営講習会」開催。第一薬科大学教員による「感染症対策を踏まえた公民館の避難所運営講習会」を実施。備蓄品等運営開設における設備を見直し、準備を行う。

第2回講座 講師 福岡管区气象台 気象予報士

- ・「台風に備えて」、「大雨に備えて」、「地球温暖化について」をテーマとした内容で講演を実施した。

## 3 事業の成果

避難所運営の方針の作成・「平野防災の取り組みコーナー」の設置・毎年6月の防災訓練の実施について関係者の合意を得ることができた。

一連の防災会議・講座を通じて「防災の取り組みは、まず日頃のご近所づきあいから始まる」を実感した。

「避難する・しないの選択は、個人の死生観に関わることでもある。避難しながらの住民の理由を理解しその上で助けようとする地域住民の思いが今後の地域の安全・安心に繋がり、「このまちに住みつづけたい住んでよかった そんなまちでありたい」が実現できるものと思われる。地域で結成された「東川頭お助け隊」はその思いを表す結果となった。

## 4 今後の課題

平野地区は役員の方々の熱心な活動により、防災の取り組みが順調に進捗しているが、現役員・組織の高齢化に伴い将来の活動量の低下が懸念され、次世代の地域活動の担い手の発掘が課題であると言える。そうした中、様々な行事の活動拠点となっている市民センターの役割が今後ますます重要になると思われる。そこで館長として地域コミュニティ活動の活性化を促し、若い人たちが自然に地元のまちづくり活動に取り組んでいけるような雰囲気づくりに努めていきたい。

## 第8分科会

持続可能な地域づくりに向けた

# コロナ禍における公民館活動

### 討議のテーマ

- 活動が活性化したきっかけ(人・もの・こと)は何か。
- 連携・協働していく上で気を付けている点は何か。
- 今後も継続・発展させていくために、大切にしたいことや工夫していきたいことは何か。

主な視点

3密を避けた取組 ICT 機器を活用した取組 など

### ◎事例発表者

#### コロナ禍における公民館活動

佐賀県佐賀市勸興公民館 主査

中野子 清輔

#### コロナの先に見えた公民館活動

福岡県福岡市別府公民館 館長

小森 貴一郎

### ◎助言者

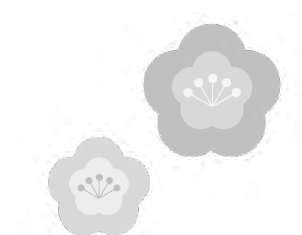
佐賀県立生涯学習センター 事務部長

関 弘紹

### ◎司会者

福岡県立社会教育総合センター 主任社会教育主事

水落 義行





# コロナ禍における公民館活動

佐賀県佐賀市立勸興公民館  
主査 中野子 清輔

## 1 はじめに

### (1) 地域の概要

佐賀市立公民館は、概ね小学校区ごとに配置されている。勸興校区は佐賀市の中心部に位置し、人口は約6,600人。飲食店や商店が集まる商業を中心とした地域で、勸興公民館と隣接して勸興小学校がある。

### (2) コロナ禍の中の佐賀市立公民館の状況

新型コロナウイルスの感染拡大により、佐賀市の全公民館は令和2年3月15日から5月10日まで休館を余儀なくされた。開館後も収容人数の制限や館内での飲食の見合わせなどの対応が現在でも続いている。

公民館が休館となっている間、これまでどおりの活動はできず、公民館の存在意義を問い公民館ができることは何かと模索する日々が続いた。

## 2 活動の内容

### (1) まちの皆さんへの応援メッセージの募集

(令和2年4月)

休館でまちの皆さんと会えない中、頑張っている皆さんに何かメッセージを発信できないかと考え、まちの皆さんへの応援メッセージを募集。小・中学校の校長先生をはじめたくさんの方からのメッセージが集まり、「会えなくても気持ちはずっとつながっている」、「耐える中に見えるものがある」といったメッセージを公民館前の道路沿いの掲示板に掲示したところ、通りがかりの人が立ち止まって読む姿が見られた。

### (2) サークルにメッセージを送付(令和2年5月)

休館中はサークル活動も停止した。週一回のサークル活動が数少ない外出であり、楽しみにしていたという高齢者は多い。5月11日から開館する旨のお知らせを郵送する際、『ステイホーム』の日々の中、人と人のつながりを持ち、励まし合う意味からも電話やメールなどでお互いに声をかけて欲しい」とのメッセージを添えた。サークルの皆さんからは、公民館からの温かいメッセージに励まされたとの声が聞かれた。

### (3) 学生のアイデアによるオンラインを活用した事業 (令和2年7月)

当公民館では校区まちづくり協議会との共催で「高齢者の居場所づくり事業」を毎月第1水曜日に開催していたが、感染した際のリスクが高いといわれる高齢者向けの事業のため、2月から中止としてきた。この事業を7月から再開させるにあたり、より安全に開催する方法はないか模索していた。

本事業の内容は地域の福祉関係団体等が持回りで企画しており、当月の当番は西九州大学社会福祉学科の学生であった。毎回10人超の学生が来館して高齢者との交流を盛り上げるが、コロナ禍においては70畳の大広間といえども人数を絞らざるをえなかった。そこで、学生の発案により、すでに公民館に整備されていた公衆LAN環境を活用することにした。実際に来館する学生を数名に絞り、その他の学生は大学や自宅からリモートにより参加することで、会場の密を抑えることができた。

地域の高齢者は初めてのリモートを体験した人が多く、学生と対話やしりとりなどのゲームを楽しんだ。当館としても、今後の講座の開催のヒントを得ることができた意義のある機会となった。

### (4) コロナ退散アマビエぬり絵会(令和2年11月)

公民館は幼児や小学生にとっても不要不急の外出先となったため、少しでも公民館に元気な顔を見せてもらえないかと疫病退散にご利益があるとされるアマビエのぬり絵を企画した。公民館でアマビエぬり絵の台紙を準備し、公民館の窓口や小学校を通じて配布し、来館した際に密にならないようあらかじめ各家庭でぬり絵を塗って所定の日に持参した小学生以下の子どものみに限り景品をプレゼントするという仕組みにしたところ、約80点の作品が集まった。

作品を公民館の玄関に展示すると子どもの絵を家族揃って見に来館する姿が多数見られた。普段は公民館に来館しない子育て世代を呼び寄せることができた。



【アマビエぬり絵会で集まった絵の展示】

### (5)「シトラスリボンプロジェクト」勸興校区キックオフ (令和3年2月)

「たとえコロナウイルスに感染しても、誰もが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会に」という願いが込められた、愛媛県発祥の「シトラスリボンプロジェクト」。このプロジェクトに校区を挙げて取り組むことができないかと検討し、「キックオフ」と称してまちづくり協議会との共催で開催した。

当日は、発起人である松山大学准教授や愛媛大学の教授とリモートでつなぎ、プロジェクトへの思いや運動の広がりなど語ってもらったほか、実際にシトラスリボンを制作する時間やコロナ禍の中で出番が少なくなっていた市の社会同和教育指導員の講話を設け、コロナ差別について考える有意義な機会となった。

密を避けるため、リモートによる参加者と公民館に直接来館する参加者の両方を組み合わせた「ハイブリッド方式」での開催。リモート、現地合わせ約50名の参加者があった。

この「キックオフ」をきっかけに、勸興小PTAが勸興小児童全員分のシトラスリボンを制作して配布したほか、小学校にはシトラスリボンプロジェクトへの賛同を表明する横断幕が設置されるなど、参加者が取り組みを自ら広げていくという形が見られた。

なお、リモート環境の運営については、佐賀県CSO推進機構の地域団体オンライン活用支援によりサポートを得た。



【「シトラスリボンプロジェクト」キックオフ】

### (6) 佐賀こども食堂

佐賀こども食堂は、それまで活動してきた建物の閉鎖に伴い、令和2年4月から当公民館で開催されることとなった。こども食堂のメンバーは「公民館の広い部屋と庭で、大勢の子どもたちと思いっきり遊んで、にぎやかにご飯を食べることができる」と楽しみにされており、公民館としてもたくさんの子どもたちが遊びに訪れることに期待していたが、コロナ禍の中で、当面は3密を避けて公民館の軒先での弁当配布のみとなった。それでも弁当を配布することで地域の様子を知り、つながりを維持することができると考えている。

勸興公民館に拠点を移したタイミングでコロナ禍になったためフルサイズのこども食堂はまだ実現できていないが、公民館が子どもたちの笑い声で包まれる日が早く来ることを心待ちにしている。

## 3 評価・成果

コロナ禍の下での公民館活動を模索する中、リモートの活用など新たな取組が生まれた一方、応援メッセージや子どものぬり絵の掲示などアナログによる手段も深めながら、これまで公民館とつながりがなかった地域の人々ともつながることができた。さらに公民館の事業への協力を求める中で、愛媛県のシトラスリボンプロジェクトメンバーやCSO（市民社会組織）、他県の人々やNPOとも新たにつながりをもつことができた。

アナログも含めた多種多様な手段を用いることにより、「誰一人として取り残さない」ことを目指した実践を継続していきたい。地域の人々の反応を見るに、公民館は決して不要不急の施設ではなく、直接対面で会えなくても工夫次第で地域を支え、つながることができると確信した。

## 4 これからの公民館

今後もしばらくはコロナ対応が続くことが予想される。そのような中でも子どもから大人、高齢者までそれぞれの年齢層とのつながりを維持するためには、日ごろから多種多様なハードやソフトを備えておきたい。

また、公民館がリモートなど新しいことに取組めるよう、普段からCSOなど多種多様な団体とつながりを持ち、必要な折には助けを求められる関係を築いておくこともよいのではないだろうか。

次は市内の他の公民館とも連携し、国際交流に関してリモートを活用した事業の構想を温めているところである。

## 1 はじめに

### (1) 校区概要

別府公民館が所在する福岡市城南区別府校区は地下鉄七隈線が中心を貫いており、国道 202 号線、城南学園通りなどの道路網を合わせると極めて交通が至便な地域である。そのような要素があって、マンションを中心に住宅建設が進み人口流入が続いている。校区面積 0.86 km<sup>2</sup>の狭さであるのにもかかわらず、人口は 17,000 人を超えている。65 歳以上の高齢化率は低いが、高齢者の絶対人数は 3,000 人を超えている。このことは、校区の課題として高齢者対象の企画を積極的に考える必要に迫られている。また、30 代から 40 代の子育て世代の流入が著しく、その人たちの地域への融和策も考えなければならない状況にある。

### (2) 実態とねらい

新型コロナウイルス感染症対策で緊急事態宣言の下、公民館の閉館という、かつて経験したことがない現実に直面し、館内にひとり一人いない様子は信じることができなかった。公民館に人が来られない。この状況を何とかしたいとの思いが生じた。特に高齢者教室の休止は参加者もさることながら公民館としても痛手となった。人を集めることができないことへの打開策として、紙通信でつながりを持ったり、YouTube 発信やオンライン活用で Zoom 講座の開始など考えられる手段を講じることにした。

## 2 活動内容

### (1) 元気しとるね」通信発行

4 月から開講予定だった高齢者教室生 65 名や男の料理教室生 24 名と、つながっていくにはと考え、通信の発行を思い立った。教室開催予定日に公民館に取りに来てもらうことにした。最初は半分弱の人しか取りに来なかった。来られない人には自宅まで持って行き、できるだけ手渡して話をするようにした。通信を渡す際にやり取りした話題や、昔の教室生の文集の中からすばらしい文章を掲載したりした。年明けには 3 分の 2 以上の

人が取りに来てくれるようになった。

この期間に住民とつながってその声を聴けたことは、その後のコロナ禍のもと事業テーマを考えるのに大いに役立った。

### (2) YouTube チャンネルの開設

6 月に SNS を始めようとして、市内で先行している公民館に尋ねたところ、すでに YouTube までも手掛けていた。YouTube ならば計画した事業も対面講座としなくても実施できる。早速、YouTube の動画撮影を開始した。講座は「多肉植物の寄せ植え」で、講師は資格を持つ公民館のスタッフが務め、撮影と編集作業は職員が手掛けるという素人集団での制作となったが何とかものになった。その後、地域の人が YouTube 制作に興味を示すようになった。別府公民館は文庫活動が盛んで自慢にできることのひとつであるが、3 年前から「絵本のおうち」という大掛かりなイベントを開催していた。令和 2 年の開催が無理であればそれに代わるものをやりたいとなり、YouTube での発信をすることにした。脚本、演出はもちろん動画編集も文庫メンバーが行った。そして過去 3 年分の「絵本のおうちプレイバック編」3 本が完成した。

また、7 人のママ友メンバーが過去に中学生と CM 作りをやった経験から、その CM 作品をリニューアルして YouTube で公開したいとして出来上がったのが「別府王国の歌」「別府の今昔」である。

開催できなかった文化祭も配信し、現在まで予告編を含め 25 本を公開した。



【多肉植物寄せ植え講座撮影の様子】



### (3) オンライン講座開始

8月にNPO法人ドネルモが主催するオンライン活用講座を受講した。Zoomを使えば集まることなく自宅からの参加が可能だとわかった。

ア 最初の「子育て応援団」ではホストとして主催する技術もなかったので講師にホストになってもらって開催した。内容は子育て中の保護者を対象にしたオンライン講座だったので、たくさんの参加者を見込めるだろうと思っていたものの、申し込みは4組のみ。窓口で声掛けしてみたが、まだまだ仕事以外でのZoomの利用は浸透していないことが分かった。オンライン講座を普及するには利用できる人を増やしていくことも必要だと感じた。

イ 小学生向けオンライン講座「すごろくを作ろう」では初めてホストとなったが、参加した小学生は思った以上にオンラインに慣れていた。すごろくの完成品を公民館に持参してもらい呼びかけをしたところ全員が持って来てくれた。講師と実際に遊んで、感想を記して返却をした。

ウ ハイブリッド方式と言われる会場と自宅参加ができるZoom講座は「4Bストレッチ」を取り入れた。60代までの参加限定だったが、毎回両方に参加が多くあった。これは撮影を通してのオンラインだったので技術的なところはNPO法人ドネルモの支援を受け、併せてノウハウの習得に努めた。

エ 料理教室も材料を前もって公民館に取りに来てもらい、自宅で受講するZoom講座にしたり、参加者を2部屋に分けてZoomを使って講座をするなど、様々なオンライン講座を職員でできるようになった。

オ 区の社会福祉協議会からは、地域と事業者をつなぐ事業をオンラインで実施できないかとの申し出があった。事業者の講師が会場に出向くことが時期的に不可能であることにより、事業所から公民館で受講する参加者に向けて体操教室を開催したものである。こうした行政からのオンラインを活用した事業開催の相談も増えた。

カ Zoom講座を始めると受講のために機器の操作を知りたい人で公民館窓口は対応に追われることになった。これではいかにも大変

なので、NPO法人ドネルモに依頼し講座を開催することで参加者も増えていった。

### 3 活動の成果

コロナウイルス感染症対策により、公民館が本来の姿でなくなった状況の中で、何とかしたいとの思いが紙での通信やオンライン活用につながった。オンライン講座も最初は手探りの状況であったが経験を重ねることにより講座内容により様々な対応ができるようになった。特に高齢者の参加が徐々に増えて、3回目の緊急事態宣言下では、急遽Zoom開催に変更したのにもかかわらず、殆どの方が参加できたのは1年前からの大きな変化だった。

### 4 今後の課題

このコロナ禍を経験したことで、思いがけず公民館でオンラインを取り入れる事業を行うことになったが、これもネット社会が進む中でこれからは必然となると思われる。子どもの頃からオンライン授業を受け、テレワークを経験した人たちが、公民館を利用するようになる時代に向け、集い、つながり、学ぶ場に足を運ぶことで得られるものを打ち出していく必要がある。オンラインは人をつなげる手段としてだけでなく、公民館活動に関心を持ってもらうきっかけとしても大いに活用できる。決して、集うのが面倒だから利用するのではなく、オンライン参加してみても次は公民館に行って講座や地域活動に来てみたいと思えるような事業内容を検討していかなくていけないだろう。

コロナを経験したことにより、私たちは賢くなったと思うし、その賢さを後退させないことが、これからの課題である。



【4Bストレッチ体操でのハイブリッド方式Zoom講座】



## 令和3年度 被表彰者一覧

### 1 全国公民館連合会表彰関係

#### 【優良職員表彰】

| 都道府県 | 氏 名               | 公民館名      | 職 名 |
|------|-------------------|-----------|-----|
| 福岡県  | むたぐち きよし<br>牟田口 清 | みやま市中央公民館 | 館長  |

#### 【永年勤続職員表彰】

| 都道府県 | 氏 名                  | 公民館名                                   | 職 名   |
|------|----------------------|----------------------------------------|-------|
| 福岡県  | しげまつ り え こ<br>重松 利枝子 | ひなしろこみゆにていせんたー<br>蜷城コミュニティセンター         | 事務局次長 |
|      | もり みよし<br>森 美良       | あさくらしあきづきこみゆにていせんたー<br>朝倉市秋月コミュニティセンター | 事務局員  |
|      | かわばた え み こ<br>川端 恵美子 | あさくらしたていしこみゆにていせんたー<br>朝倉市立石コミュニティセンター | 事務局長  |
|      | くりはら あつこ<br>栗原 敦子    | や め しにしこうみんかん<br>八女市西公民館               | 館長    |
| 長崎県  | こばやし ま り こ<br>小林 萬里子 | ながさききたこうみんかん<br>長崎市北公民館                | 職員    |
|      | よしだ ひろみ<br>吉田 弘美     | ながさきしわきみさき ち くこうみんかん<br>長崎市脇 岬 地区公民館   | 職員    |
|      | うちの あけみ<br>内野 明美     | ながさきし の も ち くこうみんかん<br>長崎市野母地区公民館      | 職員    |
|      | さくなか おさむ<br>作中 修     | さいかいしまつしま ち くこうみんかん<br>西海市松島地区公民館      | 主事    |
|      | いがわ ひろゆき<br>井川 広之    | ごとうしちゅうおうこうみんかん<br>五島市中央公民館            | 主事    |
|      | しま のりこ<br>島 則子       | ごとうし みいらくまちこうみんかん<br>五島市三井楽町公民館        | 主事    |
| 熊本県  | なかやま よしあき<br>中山 義明   | くまもとしりきごうこうこうみんかん<br>熊本市力合校区公民館        | 館長    |

| 都道府県 | 氏 名               | 公民館名                                   | 職 名 |
|------|-------------------|----------------------------------------|-----|
| 熊本県  | もとぬし とみ<br>元主 富   | くまもとしこうざんこうみんかん<br>熊本市向山公民館            | 館長  |
| 鹿児島  | すえよしゆきのり<br>末吉 征徳 | いぶすきしたんぼこうこうみんかん<br>指宿市丹波校区公民館         | 主事  |
|      | かわばた りつこ<br>川畑 律子 | いぶすきしかわしりこうこうみんかん<br>指宿市川尻校区公民館        | 主事  |
| 沖縄県  | おおしろ としお<br>大城 敏雄 | は え ば る ちようりつちゆうおうこうみんかん<br>南風原町立中央公民館 | 館長  |

#### 【功労者表彰】

| 都道府県 | 氏 名                | 公 連 名       |
|------|--------------------|-------------|
| 佐賀県  | くさば ひろし<br>草場 浩    | 佐賀県公民館連合会   |
| 長崎県  | なかしま けんぞう<br>中嶋 健蔵 | 長崎県公民館連絡協議会 |

#### 【公連勤続職員表彰】

| 都道府県 | 氏 名              | 公 連 名     | 職名   |
|------|------------------|-----------|------|
| 宮崎県  | たしろ あいこ<br>田代 愛子 | 宮崎県公民館連合会 | 書記会計 |

## 2 九州公民館連合会表彰関係

#### 【役職員表彰】

| 都道府県 | 氏 名               | 公 連 名     |
|------|-------------------|-----------|
| 熊本県  | おおた あつひろ<br>太田 篤洋 | 熊本県公民館連合会 |

#### 【感謝表彰】

| 都道府県 | 氏 名               | 公 連 名       |
|------|-------------------|-------------|
| 佐賀県  | くさば ひろし<br>草場 浩   | 佐賀県公民館連合会   |
| 沖縄県  | たばた かずまさ<br>田端 一正 | 沖縄県公民館連絡協議会 |

---

## 記念講演

---

### NGOペシャワール会 会長 村上 優 氏

「中村 哲 氏の遺したものと社会教育」

～持続可能な地域づくりのために～

アフガニスタンに命の水を生活、健康、平和を取り戻す

【インタビュアー 九州女子大学 教授 大島 まな 氏】

《村上 優》

大阪府出身。

九州大学医学部卒業。

精神科医として、国立肥前療養所（現国立病院機構肥前精神医療センター）をはじめ、各地の国立病院を経て、現在さいがた医療センター（新潟県上越市）に勤務。

1992年よりペシャワール会の事務局長、2005年より副会長を務め、2015年ペシャワール会会長に就任。

中村哲医師（PMS 総院長、ペシャワール会現地代表）の後を継ぎ、2019年12月よりPMS 総院長に就任、ペシャワール会会長を兼任する。中村医師との公私にわたる交友は46年におよび、ペシャワール会発足当初から一貫して活動を支えている。

＊PMS：ピース ジャパン メディカルサービス（平和医療団・日本）中村哲医師によって創設されたアフガニスタン現地の法人組織



【左：村上会長 右：中村 哲氏】

《大島 まな》

九州女子大学人間科学部長 教授、地域教育実践研究センター所長

2009年から福岡県社会教育委員、2019年から福岡県教育審議会委員として活躍中。

また、福岡県男女共同参画審議会委員、福岡県教科用図書選定審議会委員等、県政全般に携わる。

第 43 回全国公民館研究集会

第 72 回九州地区公民館研究大会 福岡大会 運営組織

第 66 回福岡県公民館大会

|       |                   |                    |        |
|-------|-------------------|--------------------|--------|
| 会 長   | 福岡県公民館連合会 会長      | 宇美町 町長             | 木原 忠   |
| 副 会 長 | 鹿児島県公民館連絡協議会 会長   | 湧水町 町長             | 池上 滝一  |
|       | 長崎県公民館連絡協議会 会長    | 波佐見町 教育長           | 森田 法幸  |
| 運営委員  | 佐賀県公民館連合会 会長      | 神崎市 教育長            | 末次 利明  |
|       | 熊本県公民館連合会 会長      | 南阿蘇村 教育長           | 松野 孝雄  |
|       | 大分県公民館連合会 会長      | 臼杵市 市長             | 中野 五郎  |
|       | 宮崎県公民館連合会 会長      | 西米良村 村長            | 黒木 定藏  |
|       | 沖縄県公民館連絡協議会 会長    | 那覇市 教育長            | 山城 良嗣  |
|       | 福岡県公民館連合会 事務局長    | 教育庁教育振興部社会教育課 課長   | 中嶋 健一  |
|       | 佐賀県公民館連合会 事務局長    | 県民環境部まなび課 課長       | 田中 憲尚  |
|       | 長崎県公民館連絡協議会 事務局長  | 教育庁生涯学習課 課長        | 山崎 由美  |
|       | 熊本県公民館連合会 事務局長    | 教育庁教市町村教育局社会教育課 課長 | 須惠 勝幸  |
|       | 大分県公民館連合会 事務局長    | 教育庁社会教育課 課長        | 後藤 秀徳  |
|       | 宮崎県公民館連合会 事務局長    | 教育庁生涯学習課 課長        | 長尾 岳彦  |
|       | 鹿児島県公民館連絡協議会 事務局長 | 教育庁社会教育課 課長        | 窪田 雅彦  |
|       | 沖縄県公民館連絡協議会 事務局長  | 教育庁生涯学習振興課 課長      | 大宜見 勝美 |

第 43 回全国公民館研究集会

第 72 回九州地区公民館研究大会 福岡大会 実行委員会事務局

第 66 回福岡県公民館大会

〒 812-8575

福岡市博多区東公園7番7号

福岡県教育庁教育振興部社会教育課内

TEL : 092-643-3887 FAX : 092-643-3889



第 43 回全国公民館研究集会

第 72 回九州地区公民館研究大会

福岡大会

実行委員会組織

第 66 回福岡県公民館大会

|      |               |                               |        |
|------|---------------|-------------------------------|--------|
| 委員長  | 福岡県公民館連合会会長   | 宇美町 町長                        | 木原 忠   |
| 副委員長 | 福岡県公民館連合会副会長  | 福岡県社会教育委員連絡協議会 会長             | 安部 正俊  |
|      | 福岡県公民館連合会副会長  | 筑前町教育委員会 教育長                  | 入江 哲生  |
|      | 福岡県公民館連合会副会長  | 福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課 課長      | 松枝 勉   |
| 委 員  | 福岡県公民館連合会理事   | 北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部生涯学習課 課長 | 佐藤 健治  |
|      | 福岡県公民館連合会理事   | 大野城市地域創造部コミュニティ文化課 課長         | 檜木 英幸  |
|      | 福岡県公民館連合会理事   | 宮若市教育委員会社会教育課課長               | 松尾 竜彦  |
|      | 福岡県公民館連合会理事   | 小郡市市民福祉部コミュニティ推進課 課長          | 松下 雅行  |
|      | 福岡県公民館連合会理事   | 八女市中央公民館 館長                   | 山口 昭弘  |
|      | 福岡県公民館連合会理事   | 嘉麻市教育委員会生涯学習課 課長補佐            | 大塚 千穂子 |
|      | 福岡県公民館連合会理事   | 中央公民館 館長                      | 吉留 悌一郎 |
|      | 福岡県公民館連合会理事   | 北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部生涯学習課 係長 | 野田 久畝  |
|      | 福岡県公民館連合会専門部員 | 福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課 係長      | 上野 真由美 |
|      | 福岡県公民館連合会専門部員 | 須恵町教育委員会社会教育課 主任主事            | 印藤 真   |
|      | 福岡県公民館連合会専門部員 | 宮若市教育委員会社会教育課 公民館・スポーツ振興係長    | 相場 建一郎 |
|      | 福岡県公民館連合会専門部員 | 東峰村教育委員会教育課 主査                | 森山 敦史  |
|      | 福岡県公民館連合会専門部員 | 八女市教育委員会社会教育課 社会教育係長          | 松尾 太介  |
|      | 福岡県公民館連合会専門部員 | 川崎町中央公民館 館長                   | 坂田 修一  |
|      | 福岡県公民館連合会専門部員 | 行橋市教育委員会生涯学習課 管理係長            | 米谷 誠   |

大会実行委員会事務局

|           |                |                           |        |
|-----------|----------------|---------------------------|--------|
| 事務局長      | 福岡県連合会事務局長     | 福岡県教育庁教育振興部社会教育課 課長       | 中嶋 健一  |
| 事務局<br>職員 | 福岡県公民館連合会事務局参事 | 福岡県教育庁教育振興部社会教育課 主幹社会教育主事 | 佐藤 栄一  |
|           | 福岡県公民館連合会事務局参事 | 福岡県教育庁教育振興部社会教育課 参事兼課長補佐  | 市村 智子  |
|           | 福岡県公民館連合会事務局参事 | 福岡県教育庁教育振興部社会教育課 参事補佐兼係長  | 平田 裕一郎 |
|           | 福岡県公民館連合会事務局参事 | 福岡県教育庁教育振興部社会教育課 社会教育主事   | 村本 篤史  |
|           | 福岡県公民館連合会事務局参事 | 福岡県教育庁教育振興部社会教育課 社会教育主事   | 川波 由臣  |
|           | 福岡県公民館連合会書記    |                           | 福本 聡美  |
|           | 福岡県公民館連合会書記    |                           | 小林 真美  |
|           | 福岡県公民館連合会事務補助員 |                           | 小川 真由美 |

## 九州地区公民館研究大会の歩み

| 回  | 年   | 開催地                 | 大会テーマ                           |
|----|-----|---------------------|---------------------------------|
| 40 | 平成元 | 福岡県                 | 生涯学習社会に対応する公民館の役割・機能を考える        |
| 41 | 2   | 鹿児島県                | ふれあい学びあいの輪をひろげよう                |
| 42 | 3   | 長崎県                 | 生涯学習社会を創造する公民館活動を求めて            |
| 43 | 4   | 宮崎県<br>(全国集会同時開催)   | 生涯学習の推進と地域づくりのために公民館の果たす役割を考えよう |
| 44 | 5   | 大分県                 | 生涯学習振興の拠点としての公民館のあり方を求めて        |
| 45 | 6   | 沖縄県                 | 生涯学習の推進と公民館活動の活性化を求めて           |
| 46 | 7   | 佐賀県                 | いま熱く焔える公民館活動                    |
| 47 | 8   | 熊本県                 | 今、求められる魅力ある公民館とは                |
| 48 | 9   | 福岡県                 | 住民とともに築く生涯学習社会と公民館              |
| 49 | 10  | 鹿児島県<br>(全国集会同時開催)  | 青少年問題と公民館活動                     |
| 50 | 11  | 長崎県                 | 住民参画に公民館活動の新たな創造                |
| 51 | 12  | 宮崎県                 | 新しい時代を拓く公民館活動                   |
| 52 | 13  | 大分県                 | 21世紀の公民館活動を創造する                 |
| 53 | 14  | 沖縄県                 | 新しい時代の公民館活動を創造する                |
| 54 | 15  | 佐賀県                 | 豊かな地域づくりを担う公民館活動の創造             |
| 55 | 16  | 熊本県<br>(全国集会同時開催)   | 新しいまちづくりと公民館の創造                 |
| 56 | 17  | 福岡県                 | 変化する時代の公民館活動の在り方                |
| 57 | 18  | 鹿児島県                | 時代の要請に応える公民館                    |
| 58 | 19  | 長崎県                 | 社会の変化に対応する公民館活動の新たな展開           |
| 59 | 20  | 宮崎県                 | 地域に学び、地域を結ぶ公民館の在り方              |
| 60 | 21  | 大分県                 | 人が育ち、人が集い、人が助け合う公民館の在り方         |
| 61 | 22  | 沖縄県                 | 結い(絆)の心で地域づくりを担う公民館活動           |
| 62 | 23  | 佐賀県<br>(全国集会同時開催)   | 地域再建の活路を拓く「原動力」としての公民館          |
| 63 | 24  | 熊本県                 | 人と地域が輝くための公民館活動を目指して            |
| 64 | 25  | 福岡県                 | 活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして           |
| 65 | 26  | 鹿児島県                | 地域課題を解決と地域の活性化をめざして             |
| 66 | 27  | 長崎県                 | 地域コミュニティの核となる公民館活動              |
| 67 | 28  | 宮崎県<br>(兼全国公民館研究集会) | 地域創生は、公民館から                     |
| 68 | 29  | 大分県<br>(兼全国公民館研究集会) | 地域に求められる学びをつくる公民館活動             |
| 69 | 30  | 沖縄県                 | 地域のつながりを支える公民館活動を目指して           |
| 70 | 令和元 | 佐賀県<br>(兼全国公民館研究集会) | 社会教育や公民館の隘路を拓く                  |
| 71 | 2   | 熊本県<br>(兼全国公民館研究集会) | 開かれ、つながる社会教育の実現を目指す             |
| 72 | 3   | 福岡県<br>(兼全国公民館研究集会) | 持続可能な地域づくりに向けた公民館活動の在り方         |



2021年度 (2021年5月1日午後4時～2022年5月1日午後4時)

# 公民館総合補償制度

本制度は、公益社団法人全国公民館連合会(全公連)の制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された施設もご加入いただけます。

## 3つの補償で公民館活動をサポート

### 1. 行事傷害補償

【災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約)+見舞金制度】

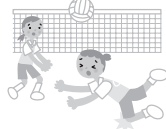
#### 保険

- 公民館行事参加者のケガを補償
- 公民館利用者のケガを補償
- 行事往復途上のケガを補償
- 行事の事前練習や事前準備、後片付けでのケガを補償
- 食中毒や熱中症を補償

#### 見舞金制度

- 疾病や特定傷害に、疾病死亡弔慰金、疾病入院見舞金をお支払いします。
- 特定災害による損害に、特定災害見舞金をお支払いします。

#### 【補償例】



- バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

### 2. 賠償責任補償

【賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約)】

#### 保険

- 公民館の施設・設備等\*の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、財物を損壊したことにより、公民館が法律上の賠償責任を負担しなければならない場合に補償

\*公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

\*施設にある昇降機(エレベーター、エスカレーター)の所有、使用、管理に起因する賠償責任も含まれます。

#### 【補償例】



- テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

### 3. 職員災害補償

【普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約)+見舞金制度】

#### 保険

- 公民館事業や業務に携わる方の公民館業務中のケガを補償

#### 見舞金制度

- 公民館事業や業務に携わる方の病気や特定傷害、業務外のケガ、業務中の地震によるケガに死亡弔慰金や入院見舞金をお支払いします。

#### 【補償例】



- 職員が業務中に脚立から転落して負傷。

## 公民館総合補償制度の特長

### (1) 補償範囲や対象者が広い、公民館専用の制度です。

- 全公連が運営する『見舞金制度』に『保険』を組み合わせた公民館や類似公民館の専用の制度で、安心して公民館活動を行っていただけるよう幅広い補償になっています。

#### ★行事傷害補償制度のここがおすすめ★

- 日本国内であれば行事の場所は問いません。 ※別に定める危険な運動中等は対象外です。
- 行事参加者や利用者の居住地は問いません。
- 公民館公認のサークル活動参加者や有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 公民館が他の団体等の行事に派遣する行事の参加者も補償します。
- 宿泊を伴う行事も対象です。

### (2) 年1回の手続きで安心です。

- 年1回の手続きで年間の主催、共催行事が対象になり、個別の行事の通知は不要です。うっかりして保険の手配を忘れる心配がありません。

### (3) 掛金の割引制度もあります。

- 同一市町村内で10館以上まとめて加入されると、行事傷害補償制度掛金に割引が適用できます。
- 職員災害補償の保険料には、団体割引25%、過去の損害率による割引20%を適用しています。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては『2021年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き』をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー総合補償サービスまたは損保ジャパンまでお寄せください。

■引受保険会社  
**損害保険ジャパン株式会社**  
営業開発部第三課  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
TEL 03-3349-3820 FAX 03-6388-0157  
(受付時間:平日9:00～17:00)

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)  
**エコー総合補償サービス株式会社**  
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9  
TEL: 0120-636-717(通話料無料)  
FAX: 0120-226-916(通話料無料)





---

第 43 回 全国公民館研究集会

第 72 回 九州地区公民館研究大会 福岡大会

令和3年度 第 66 回福岡県公民館大会

令和3年 11 月 8 日（月）～11 月 26 日（金）

---

令和3年 10 月発行

【発行・編集】

第 72 回 九州地区公民館研究大会事務局

〒811-8575 福岡市博多区東公園7番7号

〔福岡県教育庁教育振興部社会教育課内〕

TEL 092-643-3887

FAX 092-643-3889

E-mail [fkoren@aurora.ocn.ne.jp](mailto:fkoren@aurora.ocn.ne.jp)

第72回  
九州地区公民館研究大会  
福岡大会

